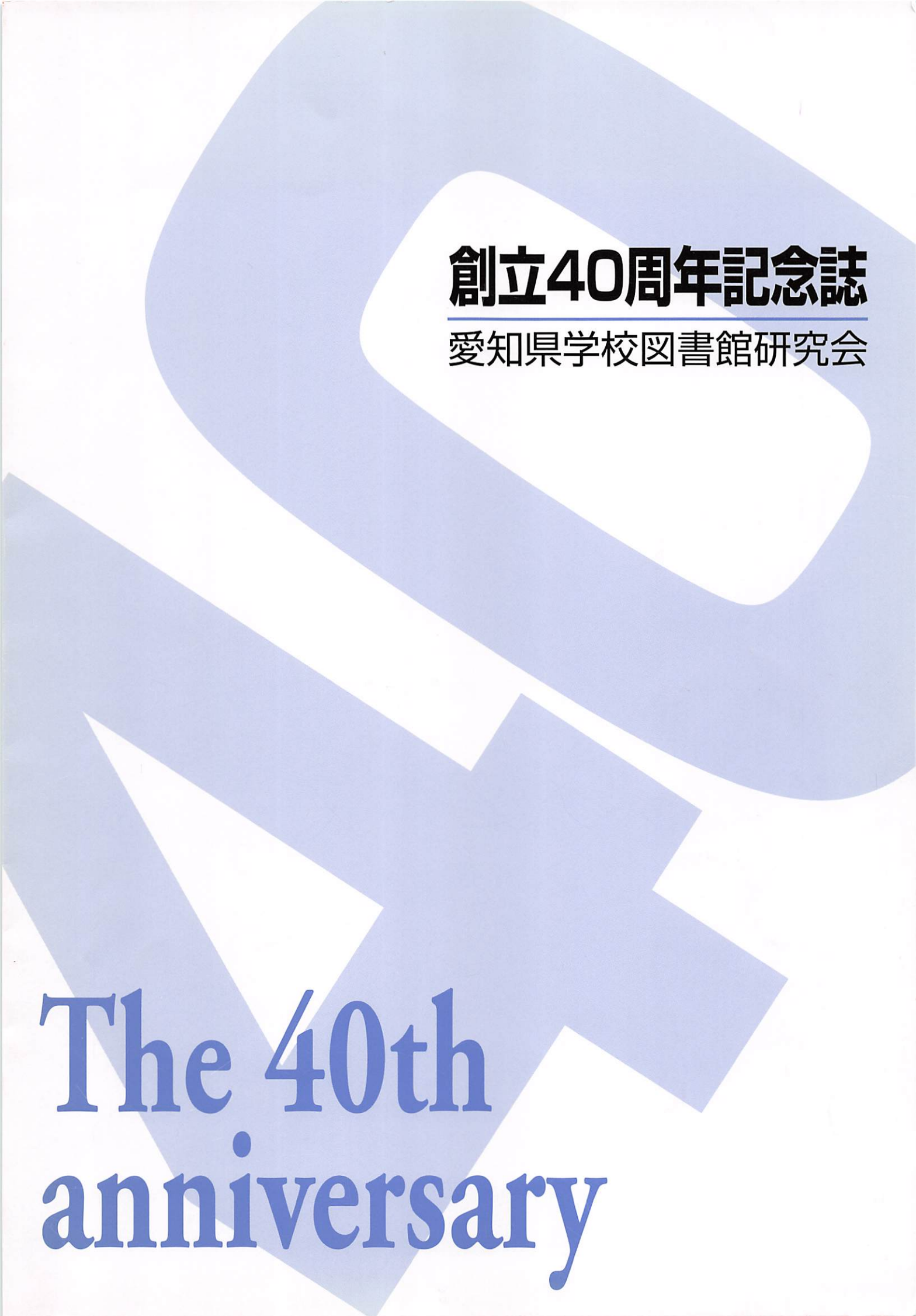




創立40周年記念誌

愛知県学校図書館研究会

The 40th
anniversary

目 次

・ 巻 頭 言	2
・ 祝 辞	3～5
・ 30周年以降のあゆみ	6～15
・ お も い で	16～21
・ 読書感想文コンクールのあゆみ	22～24
・ 読書感想画コンクールのあゆみ	25～27
・ 読書ゆうびんコンテストのあゆみ	28～30
・ 学校図書館奨励賞年度別入賞校一覧	31～32
・ 学校図書館研究会, 役員・部長・理事一覧	33～36
・ 学校図書館研究会貢献者・功労者	37
・ 会 則 の 変 遷	38～40
・ 愛知県学校図書館研究大会のあゆみ	41～42
・ 東海地区学校図書館研究大会のあゆみ	43～44
・ 全国学校図書館研究大会のあゆみ	44～45
・ 編 集 後 記	46



創立40周年を迎えて

愛知県学校図書館研究会会長 福岡 武 宏

十年一昔という言葉がありますが、平成5年に創立30周年の記念式典を開催して早10年が経ちました。

平成5年は、文部省が、学校図書館の重要性を認識し、学校図書館基準を見直し、財源を地方交付税に置いて、蔵書を5年間で1.5倍にする方針を打ち出した年でありました。本会はこの年を新たな学校図書館出発の年ととらえ、学校図書館のあるべき姿を追求してまいりました。そんな中、平成11年、衆参両院においてそれぞれ一つの決議文が採択されました。その趣旨は、『①国連が子どものための世界サミットを開き「子どもを政治の最優先に」と誓い合って10年が経過する。②しかし、この誓いは十分に果たされていない。③読書によって、子どもたちは言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生き抜く力を身につける。④子どもたちの読書活動を国を挙げて応援するため、平成12年を「子ども読書年」とし、5月に国立国際子ども図書館を開館する。』というものです。読書活動並びに図書館活動の重要性が一層認識されたのです。そして、この決議を受ける形で以下の一連の施策が講じられました。すなわち、平成13年12月の「子どもの読書活動に関する法律」の公布・施行。「子ども読書の日」の制定。そして、「学校図書館整備5か年計画」による平成14年度から年間約130億円の地方交付税措置。平成15年からの12学級以上の学校への司書教諭の配置、等です。司書教諭の配置については昭和28年に制定された「学校図書館法」に規定されていることで、実現に半世紀を要したことには、複雑な思いもいたしますが、再び、そして、今度こそ本物の新たな学校図書館の出発の時が訪れたと率直に歓迎したいと思います。

さて、昭和38年の第一回研究大会以来の研究主題を追ってきますと、一貫して流れているのは「自ら学ぶ意欲(力)」と「豊かな心(人間性)」の育成にかかわる事柄であります。平成の教育大改革とも言える現行の学習指導要領における中核は「生きる力」であり「確かな学力の形成と豊かな心の育成」であります。これは、まさに、本会が設立以来取り組んできたことと同じであり、今日的教育のキーワードである情報化社会という言葉も、既に第9回大会のテーマに謳われています。本会が、常に、変化する時代の要請に応え、児童生徒を取り巻く社会情勢に対応し、その一方で教育の普遍性を追究し、学校教育の本質を突いてきたこと、このことに限りない誇らしさを覚えます。人としてのさまざまな心の動きを表現する言葉を覚え、心揺さぶる感動を体験する場・読書センターとして、あるいは、個々に分断された教科学習を統合し、学習を総合的な営みとして行い、自ら学ぶ力の修得の場・学習・情報センターとして、すなわち、総合的で豊かな人間形成の場、新しい学びの場として学校図書館の担う役割はますます重要になっています。本会が推進原動力となって各学校の図書館教育の一層の充実を果たしたいと思います。

愛知県学校図書館研究会40周年記念誌の発刊に当たり、40年にわたる本会の活動を振り返って、着々と実績を積み上げられてきた先輩諸氏のご努力に心から敬意を表します。平成14年度に、本会が愛知図書館協会から分離独立したことは、それぞれの目的遂行をより明確にしたものと考えます。これを機に創刊いたしました読書感想文集「天空」を充実させ、本会活動の柱の一つにしたいと願っています。その一方、特色をもったそれぞれの学校図書館の間の、あるいは、公共図書館と学校図書館との間の連携ネットワークを早期に構築し、人的・物的交流を進め、読書並びに学習環境の整備を進めたいと思います。

最後になりましたが、40周年記念誌に尊いご寄稿をいただきました諸先輩に心から感謝申し上げるとともに、愛知県学校図書館研究会の着実に揺るぎない実践を継承していくことをお約束して挨拶とさせていただきます。



創立40周年を祝して

愛知県教育委員会教育長 渥 美 榮 朗

創立40周年を迎えられました愛知県学校図書館研究会に対し、心からお祝いを申し上げます。

昭和38年の設立以来、貴会は幾多の成果を収めつつ、愛知県の学校図書館教育の原動力として歴史を刻んでこられました。

これは、会員の皆様がたの学校図書館に対するたゆまぬ努力と情熱が現在の姿を生み出したものでありまして、関係の皆様がたのご尽力に対し、心より敬意を表するものであります。

学校図書館教育は、児童生徒が主体的に学び、「生きる力」を身につける教育を実現するために、その学校の教育活動を支える重要な役割を担っております。そうした学校図書館の重要性を鑑みての、今日の学校図書館教育は、子どもの読書活動の推進に関する法律の公布、学校図書館法の改正による12学級以上の学校における司書教諭の配置等、より一層の充実が図られております。

これからは、児童生徒が自ら気づき、考え、判断し行動できる資質や能力、そして豊かな人間性を育成するために、新しい時代の新しい学校図書館づくりがさらに望まれるところであります。

創立40周年を機に、ますますその組織を強固にされ、研究を推進くださいまして、「豊かな心と自ら学ぶ力をはぐくむ学校教育」の実現の中心的存在として、ご活躍くださいますようご期待申し上げます。

最後に、伝統に輝く愛知県学校図書館研究会の今後のご発展と、会員の皆様がたのご健勝をお祈りして、祝辞とします。



こういう時代だからこそ

愛知県小中学校長会長 中 川 正 明

愛知県学校図書館研究会が創立以来40年という長きにわたる歴史を歩んでこられ、ここに40周年記念誌を発刊されますことに、心よりお祝いを申し上げます。この間、研究大会や実務講習会等を毎年開催され、愛知県下の学校図書館の充実と、図書館教育の発展に多大な功績を挙げられるとともに、すでに48回を数えます青少年読書感想文愛知県コンクールや、読書感想画愛知県コンクール、読書ゆうびんコンテストなど、その時代に即した実践を積み重ねてこられました。これらのお取り組みを通して、児童生徒の読書活動の充実に寄与されておりますことに対して、敬意を表する次第であります。

さて、コンピュータ社会が進展し、現代人の活字離れが叫ばれるようになって久しいわけですが、現在、学校で取り組んでいる「総合的な学習」などでは、子どもたちの課題追究の手だてとして学校図書館の利用は不可欠であり、子どもたち個々の情報活用能力を育むために、今後も一層の充実が求められていることは言うまでもありません。時が流れ、生活が便利になればなるほど、生きてはたらく人間性が問われるものです。すぐれた読みものと出会うことは、他では得ることができない不易な価値を、内なる世界に呼び覚ますことにつながるものと信じております。

本研究会が、書物のすばらしさを児童生徒に伝えていく原動力として、時代を超えてその役割を十分に発揮され、子どもたちの情操の涵養や創造的な知性の習得のために、研究と実践を積み上げていただきますようご期待いたすとともに、本研究会のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



祝辞

愛知県公立高等学校長会会長 野々部 幸 藏

このたび、愛知県学校図書館研究会が、記念すべき創立40周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。貴会は、昭和38年に創立されて以来、愛知県下の公立小・中学校（名古屋市を除く）及び公・私立の高等学校並びに盲・聾・養護学校の図書館の充実・発展に尽力され、本県の教育の向上と有為な人材の育成に寄与してこられました。読書感想文・読書感想画愛知県コンクール開催をとおしての読書指導、並びに学校図書館活動に係わる実践的研究等の成果は、多くの人々の認めるところであり、歴代の会長さんをはじめとする関係の皆様の長年にわたる数々のご功績に対し、深甚なる敬意と感謝の念を表するものであります。

さて、近年、心の教育の充実が求められるなか、読書活動が有する優れた機能へ期待がますます高まっています。一昨年12月に『子どもの読書活動の推進に関する法律』が成立し、4月23日が「子ども読書の日」とされたのも、このような認識に基づくものと思っています。

高等学校においては、今年度から新学習指導要領が実施されており、多くの学校で「総合的な学習の時間」の活動場所として、図書館の有効な活用が図られています。また、司書教諭を中心として、読書指導の一層の充実に向け、さまざまな取り組みがなされています。今、図書館を活用した教育のさらなる充実、学校教育の力を高め豊かにする上で重要な視点であり、貴会のますますのご隆盛を期待するところであります。

終わりに、愛知県学校図書館研究会が、これまでの輝かしい実績をもとに、自ら学び考え実践する力を備え、豊かな心を持った児童生徒を育成すべく、さらに発展されることを祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



愛知県学校図書館研究会・創立40周年記念祝辞

中日新聞社社長 大 島 寅 夫

愛知県学校図書館研究会創立40周年を心からお慶び申し上げます。

学校教育の場に図書館を生かし、子どもたちが日々本に親しみ、豊かな情報収集能力を身につける学校図書館のあるべき姿を求めて、毎年研究大会や実務講習会を開催されてきた関係者のご協力にあらためて敬意を表する次第です。

情報化社会と呼ばれるようになって久しい今日、私たちの生活は確実に便利になった一方で、氾濫する情報に流されない自分の考え、判断が求められます。私たちは自己の責任において情報管理をしていかなければなりません。

進行する「活字離れ」も深刻な問題で、若い世代の「不読者層」の増加は、私ども新聞社にとっても看過できない大きな問題となってきています。毎日、家庭に届く新聞は、身近で手軽に活字を目にできるものであり、一日一度は新聞を広げる習慣が生活に溶け込んでいけば、延長線上には、きっと読書をする子どもの姿があるはずです。

読書はまず、本を選ぶことから始まります。何を読もうか考えること、すなわちどんな情報を得るか考えることが必要となってきます。そのための情報を提供し、環境を整えていくことが我々の使命ではないかと考えます。

読書感想文コンクールをはじめとする研究会の取り組みは、読書を「読む」ことにとどまらず、「形にする」ことで想像力・創造力の発達を促します。また、教育に新聞を取り入れるNIEの広まりもあり、自らの手で情報を得る力を身につけた子供が増えています。

これらの活動を通じて、楽しみながら「読書をする喜び」を子どもたちに伝えていきたいものです。変わりゆく時代とともに、愛知県学校図書館研究会がさらなるご発展を遂げられますようお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝辞2003

愛知図書館協会会長 保 田 幹 男

この度、愛知県学校図書館研究会が創立40周年を迎えられましたことを愛知図書館協会を代表して心よりお慶び申し上げます。

県下の小・中学校および高等学校図書館が手を携えて、40年の長きにわたって切磋琢磨し、また相互に協力しあって立派に仕事を積み重ねて今日に及びました。つい先年まで愛知図書館協会の傘下にあつて手を携えて県下の図書館の発展に尽力して参りましたが、学校図書館研究会がより自由な立場に立って発展するために独立をされ、着実にもろもろの事業を進めておられます。その結果については「『天空』の願いをこめて」と題して会長が詳しく報告を述べておられます。また業績の現れとして「第31回東海地区学校図書館研究大会」を開催されることになり、成果の発表が行われるのでありますが、その大会主題の副題に「たくましく生きる力を育む学校図書館をめざして」と述べられています。その意気込みに大きな期待を寄せたいと存じます。また、「第48回読書感想文愛知県コンクール」、並びに「2002年読書ゆうびんコンテスト」を実施され、それらの結果は「学校図書館研究紀要」で詳しく述べられています。この度、愛知県学校図書館研究会「創立40周年記念誌」を編集されるにあたり「祝辞」を求められました。この17年余を愛知図書館協会の立場から学校図書館研究会の発展を親しく拝見して参りました私には大変光栄でありまして、心から敬意を表してお祝いの筆を執りました。

最後に、貴研究会がますます御発展されますように祈念しまして、お祝いの言葉と致します。



「祝辞」

社団法人全国学校図書館協議会理事長 石 井 宗 雄

愛知県学校図書館研究会の創立40周年、まことにおめでとうございます。

貴会の創立後日も浅い1968年、第16回全国学校図書館研究大会が名古屋市で開催され、参加者約2,600名を迎えて多大な成果を挙げられました。1977年、全国学校図書館協議会は、岡崎市立藤川小学校に対して「学習指導における学校図書館の利用」をテーマに研究を委嘱、同校の成果は『資料を生かした社会科学習の展開』として全国学校図書館協議会から刊行されました。

愛知県はあらゆる分野で学校図書館活動を積極的に取り組んでまいりましたが、中でも全県あげての読書感想文コンクールは特筆すべきものがあります。小・中学校のほぼ100パーセントが参加、全国コンクールは毎年のように入賞者を出すほど高いレベルにあります。これは、県内のほとんどの学校が学校図書館研究会に加入しているということも大きな原動力になっていると思われます。

さて、2003年度から12学級以上の学校に司書教諭が必置されることになりました。愛知県は1957年に全国に先駆けて高等学校に専任の司書教諭が配置されたという誇るべき歴史をもっています。学校図書館法の改正により司書教諭が配置される今年度、第31回東海地区学校図書館研究大会が愛知県で開催されるというのも何かめぐり合わせのようなものを感じさせます。

愛知県学校図書館研究会が創立40周年を契機として、これまでに培った研究の成果を生かし、会員の力を結集してますますご発展されますよう心から願っております。

30周年以降のあゆみ

6年度



鈴木定夫会長

- 5.25 定期総会
豊川市立東部小学校長 鈴木定夫氏会長に就任
- 5.27 全国学校図書館協議会総会に会長出席
- 6～12月 地区別学校図書館実務講習会を実施
- 8.2～8.2 第29回全国学校図書館研究大会(秋田大会)に参加

- 会場 秋田市文化会館 他
- テーマ「学習・情報センターとしての学校図書館—子どもの豊かな明日を拓く教育の創造をめざして—」



小林忠司事務局長

- 8.24 愛知図書館協会主催の「実務講習会」に参加
- 会場 愛知県図書館
- テーマ「視聴覚資料について」
愛知学院大学教養部教授 黒柳晴夫氏

- 参加者 約280名

- 11.11 第31回愛知県学校図書館研究大会を開催
- 会場 豊川市文化会館・勤労福祉会館
- テーマ「自ら学ぶ意欲と豊かな心を育む学校図書館」

- 全体会 記念講演



開会式



講師 角野栄子氏

「お話の宅急便」 児童文学作家 角野栄子氏

- 分科会 4部会 12分科会
- 参加者 発表者 23名 参加者 約600名
- 特色 学校以外の公共施設を使用するきっかけとなった。

学校図書館整備5か年計画が策定されたこともあり、学校図書館に対する期待が高まった。第4部会では「特色ある学校図書館の諸活動」として地域と結びついた図書館活動の発表がなされた。

1.21 第40回青少年読書感想文愛知県コンクール表彰式

3.15 学校図書館研究紀要 No.36号発行



受付風景



満席の全体会場



分科会風景

7年度



高橋邦肇会長

- 5.26 全国学校図書館協議会総会に会長出席
- 5.31 定期総会
愛知県立春日井西高等学校長 高橋邦肇氏会長に就任
- 6～12月 地区別学校図書館実務講習会を実施
- 8.9～10 第27回東海地区学校図書館研究大会(浜松大会)に参加

- 会場 浜松市教育文化会館 他
- テーマ 「豊かな心と社会の変化に主体的に対応できる力を育む図書館教育」



野田良彦事務局長

- 8.23 愛知図書館協会主催の「実務講習会」に参加

- 会場 愛知県図書館
- テーマ 「ブックトークについて」 東京都品川区立源氏前図書館館長 佐藤涼子氏
- 参加者 約230名

- 10.27 第32回愛知県学校図書館研究大会を開催

- 会場 愛知県中小企業センター
- テーマ 「自ら学ぶ意欲を育て、情報化社会に対応する学校図書館」



開会式



記念講演をする安田文吉氏

- 全体会 記念講演
「近世庶民文化
—名古屋文化と徳川宗春」
南山大学文学部教授 安田文吉氏
- 分科会 3部会 12分科会
- 参加者 発表者 23名 参加者 約500名

- 1.20 第41回青少年読書感想文愛知県コンクール表彰式

- 3.25 学校図書館研究紀要 No.37号発行

※ 読書感想画における全国造形教育連盟の後援開始。



研究大会分科会



読書感想文コンクール表彰式



研究大会受付風景

8年度



石川利彦会長

5.28 定期総会
半田市立半田小学校長 石川利彦氏会長に就任

5.29 第46回全国学校図書館協議会総会に会長出席

6～12月 地区別学校図書館実務講習会を実施

7.31～8.2 第30回全国学校図書館研究大会(浦和大会)に参加

●会場 埼玉会館、浦和市民会館、県民健康センター 他

●テーマ 「情報活用能力を培う学校図書館

—自ら学び心豊かな子どもたちの育成をめざして—

8.28 愛知図書館協会主催の「実務講習会」に参加

●会場 愛知県図書館

●テーマ 「コンピュータを使用しての図書館運営及び公共図書館と学校図書館のネットワーク」 大垣市立図書館 北村彰夫氏

●参加者 約270名

10.25 第33回愛知県学校図書館研究大会を開催

●会場 一宮勤労福祉会館

一宮市温水プール

●テーマ 「豊かな心と社会の変化に主体的に対応できる力を育む学校図書館」

●全体会 記念講演

「宮沢賢治と新美南吉」 大阪教育大学教授 大藤幹夫氏

●分科会 3部会 9分科会

●参加者 発表者 19名 参加者 約500名

●特色 「読書センター」「情報センター」「学習センター」としての学校図書館のあり方が定着してきた。コンピュータを導入する学校も増え、コンピュータ導入校の実践も紹介された。



開会式

1.18 第42回青少年読書感想文愛知県コンクール表彰式

3.15 学校図書館研究紀要 No.38号発行

※ 東海三県学校図書館奨励賞が終了。



研究大会分科会



読書感想文コンクール表彰式

9年度



高須正義会長



石黒石根会長

- 5.23 定期総会
西尾市立鶴城中学校校長 高須正義氏会長に就任
- 5.28 全国学校図書館協議会総会に会長出席
- 6～12月 地区別学校図書館実務講習会を実施
- 8.30～31 第28回東海地区学校図書館研究大会(名古屋大会)に参加
 - 会 場 名古屋市
 - テーマ 「豊かに生きる力を育てる学校図書館の活動はどうあるべきか」



犬塚 恵事務局長

- 8.27 愛知図書館協会主催の「実務講習会」に参加

- 会 場 愛知県図書館
- テーマ 「昔話に見る誕生と死」
作家 松井 友 氏
- 参加者 約280名



開会式

- 9.30 高須会長幡豆郡教育長就任のため会長を退任
- 10.24 豊橋市立牟呂小学校校長 石黒石根氏会長に就任
(10.1～10.23会長代行)
- 10.24 第34回愛知県学校図書館研究大会を開催



講師 新川和江氏

- 会 場 西尾市文化会館 西尾市青年の家・働く婦人の家 他
- テーマ 「心豊かで、自ら調べる子どもを育てる学校図書館」
- 全体会 記念講演 「詩が生まれるとき」 新川和江氏
- 分科会 4部会 12分科会
- 参加者 発表者 24名 参加者 約700名
- 特 色 第4部会では図書館ボランティアによる読み聞かせの実演もあり、今後の図書館活動の方向を示唆するものとなった。

- 1.31 第43回青少年読書感想文愛知県コンクール表彰式

- 3.25 学校図書館研究紀要 No.39号発行

〈学校図書館法の改正〉

「学校図書館法の一部を改正する法律案」が、平成9年5月30日に衆議院文教委員会で審議・可決され、ついで6月3日に衆議院本会議に提案され賛成多数で可決、成立した。6月11日、「学校図書館法の一部を改正する法律」が関係政省令とともに、公布・施行された。

この改正によって、平成15年度より、全国の12学級以上の小・中・高等学校に司書教諭が配置されることになった。



分科会風景

10年度



村本邦夫会長

- 5.26 全国学校図書館協議会総会に会長出席
- 6.5 定期総会
愛知県立熱田高等学校長 村本邦夫氏会長に就任
- 6～12月 地区別学校図書館実務講習会を実施
- 8.3～5 第31回全国学校図書館研究大会(金沢大会)に参加
 - 会 場 金沢工業大学、金沢工業高等専門学校
 - テーマ 「新世紀の教育を拓く学校図書館」



小櫻 謙事務局長

- 8.27 愛知図書館協会主催の「実務講習会」に参加
 - 会 場 愛知県図書館
 - テーマ 「学校図書館を考える」
児童図書研究者 赤木かん子氏
 - 参加者 約200名

10.30 第35回愛知県学校図書館研究大会を開催

- 会 場 愛知県中小企業センター
- テーマ 「豊かな人間性をはぐくみ、
情報社会に應える学校図書館」
- 全体会 記念講演 「子どもの生活と童話」 児童文学者 寺村輝夫氏
- 分科会 4部会 13分科会
- 参加者 発表者 26名 参加者 約590名
- 特 色 第4部会の「特色ある学校図書館の諸活動」をテーマに、小中高の合同シンポジウムが新たに設けられ、好評を博した。読書感想画、読書ゆうびんコンテストの優秀作品の研究大会会場での展示が、この年から始まった。



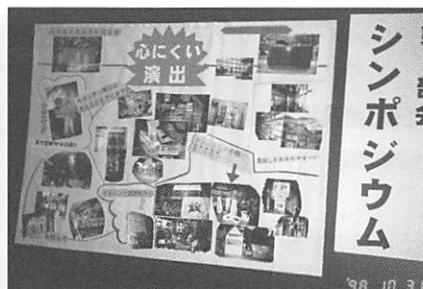
研究大会 受付風景



読書感想画 ゆうびんコンテスト優秀作品展示

1.30 第44回青少年読書感想文愛知県コンクール表彰式

3.25 学校図書館研究紀要 No.40号発行



第1回 小・中・高合同シンポジウム風景



11年度



石川健二会長

- 5.28 全国学校図書館協議会総会に会長出席
- 6.2 定期総会
東海市立横須賀小学校長 石川健二氏会長に就任
- 6～12月 地区別学校図書館実務講習会を実施
- 8.3～4 第29回東海地区学校図書館研究大会(津大会)に参加

- 会場 三重県総合文化センター 他
- テーマ 「21世紀への学校図書館の展望

～個性をみがき、豊かに生きる力をはぐくむ学校図書館のあり方～」



井本直樹事務局長

- 8.27 愛知図書館協会主催の「実務講習会」に参加

- 会場 愛知県図書館
- テーマ 「児童図書館奉仕」 東海学園女子短期大学教授 矢野 有氏
- 参加者 約180名

- 10.26 第36回愛知県学校図書館研究大会を開催

- 会場 ・佐屋町中央公民館
・佐屋町立図書館
・佐屋町立佐屋中学校
・佐屋町立小学校
- テーマ 「豊かな感性をはぐくみ、生きる力を培う学校図書館」



研究大会会場入口



研究大会分科会

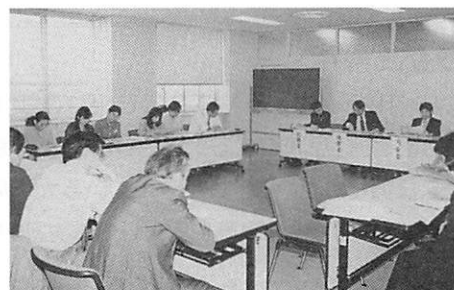
- 全体会 記念講演
「子どもと本のおいしい関係」 児童文学者 山下明生氏
- 分科会 3部会 11分科会
- 参加者 発表者 23名 参加者 約500名
- 特色 読書感想画コンクール・読書ゆうびんコンテストの優秀作品を展示したところ、たいへん好評であった。

- 1.29 第45回青少年読書感想文愛知県コンクール表彰式

- 3.25 学校図書館研究紀要 No.41号発行



実務講習会（高校部）



研究大会分科会

12年度



加藤和彦会長

- 5.26 全国学校図書館協議会総会に会長代理として出席
- 5.31 定期総会
豊橋市立向山小学校長 加藤和彦氏会長に就任
- 6～12月 地区別学校図書館実務講習会を実施
- 8.2～4 第32回全国学校図書館研究大会(奈良大会)に参加

●会 場 奈良大学 他

●テーマ 「学校図書館が変わる・教育が変わるー学習・情報センター、読書センターの充実発展を求めてー」



鈴木伸一事務局長

- 8.24 愛知図書館協会主催の「実務講習会」に参加

●会 場 愛知県図書館

●テーマ 「アウトドアでアトリエで」

絵本作家 村上靖成氏

●参加者 約100名

- 10.27 第37回愛知県学校図書館研究大会を開催

●会 場 ライフポートとよはし

●テーマ 「新しい教育の中核を担う学校図書館」

●全体会 記念講演 「新世紀の教育を拓く学校図書館ーそのあり方と課題を考えるー」

全国学校図書館協議会理事長 笠原良郎氏

●分科会 3部会 11分科会

●参加者 発表者22名 参加者 672名

●特 色 学校図書館の将来像を見きわめて図書館担当者が今なすべきことを明確にするため、全国学校図書館協議会理事長に講演を依頼。新教育課程における学校図書館の役割について分科会でも討議された。



記念講演



講師 笠原良郎氏

- 2.9 子ども読書年記念
第46回青少年読書感想文愛知県コンクール表彰式
- 3.19 学校図書館研究紀要 No.42号発行

〈子ども読書年〉

平成11年8月9日、参議院本会議で、翌10日、衆議院本会議において、「国際子ども図書館」が開館する平成12年を「子ども読書年」とする決議が、全会一致で採択された。子どもが抱えている大きな問題について学校や親だけでなく、国や自治体も真剣に考え、読書の振興を図る施策を打ちだす契機となるべき年となった。



市民ボランティアによるブックトークの実況

13年度



豊永利英会長

6.1 定期総会

愛知県立春日井西高等学校長 豊永利英氏会長に就任

6～12月 地区別学校図書館実務講習会を実施

8.8～9 第30回東海地区学校図書館研究大会(岐阜大会)に参加

●会 場 美濃加茂市文化会館・名城大学可児校舎 他

●テーマ 「21世紀の始まり 学校図書館に求められるもの～情報化社会に対応する学校図書館の展望～」



田中伸治事務局長

8.24 愛知図書館協会主催の「実務講習会」に参加

●会 場 愛知県図書館

●テーマ 「『総合的な学習』『調べ学習』における学校と公共図書館の連携」

●参加者 約200名

10.30 第38回愛知県学校図書館研究大会を開催

●会 場 ウィルあいち

●テーマ 「21世紀を開く学校図書館」

●全体会 記念講演 「考えるヒントー講演と朗読」

作家 阿刀田 高氏

日本点字図書館朗読員 阿刀田慶子氏



講演する阿刀田 高氏 朗読する阿刀田 慶子氏



研究大会分科会風景

●分科会 4部会 13分科会

●参加者 発表者 24名 参加者 約600名

●特 色 図書館のコンピュータ化に関する研究発表も増加。発表そのものもノートパソコンにプロジェクターをつなげるなど機器を利用したものも多くなってきた。

3.19 学校図書館研究紀要 No.43号発行

※4.1 図書館ガイド「ライブラリ.ナウ」を発刊(高校部会)



シンポジウム風景



読書感想画コンクール審査風景



読書感想文コンクール審査風景

14年度



山田博司会長

- 5.29 全国学校図書館協議会総会に会長出席
- 5.31 定期総会
丹羽郡大口町立大口中学校長 山田博司氏会長に就任

6～12月 地区別学校図書館実務講習会を実施

7.30～8.1 第33回全国学校図書館研究大会(横浜大会)に参加

- 会場 神奈川県民ホール・神奈川大学 他
- テーマ 「学びのネットワークを広げる学校図書館」



穴沢隆弘事務局長

10.29 第39回愛知県学校図書館研究大会を開催

- 会場 師勝町民総合体育館・師勝町役場・師勝町図書館・師勝町立師勝中学校
- テーマ 「新しい時代の新しい学校図書館—読書に親しみ、豊かな情報を得るための学校図書館を目指して—」

●全体会 記念講演

『『北の国から』の制作に当たって』

(株)フジテレビジョン 編成制作局

エグゼクティブディレクター

杉田成道氏



開会式



記念講演をする杉田成道氏

●分科会 3部会 11分科会

●参加者 発表者 23名 参加者 約550名

●特色 「総合的な学習」の本格実施に伴い、「学び方の学習を支援する学校図書館」という視点での提案が多く、どの分科会も活発な研究協議が行われた。



研究大会分科会

1.16 読書感想文集「天空」を創刊

3.19 学校図書館研究紀要 No.44号発行

〈愛知図書館協会からの分離・独立〉

※分離独立に伴い、従来協会が行っていた読書感想文コンクールの事務一切を本会の事務局長と読感部で実施。

※平成13年度から行われなくなった読書感想文コンクールの表彰式にかえ、紀要部が中心になって読書感想文集「天空」を編集発行。

※読書ゆうびんコンテストが一新。高等学校の部を新設。

〈子ども読書の日〉

昨年度制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」は子どもの読書活動に関する基本理念を定め、国や地方公共団体の責任を明確にし、子どもの読書活動を推進するための施策を進めて、子どもの健やかな成長を図ることを目的としている。これによって、本年度より、4月23日は「子ども読書の日」と定められた。

15年度



福岡武宏会長

- 5.28 全国学校図書館協議会総会に会長出席
- 5.30 定期総会
豊田市立猿投台中学校長 福岡武宏氏会長に就任
- 6月～12月 地区別学校図書館実務講習会を実施
- 8.7～8 第31回東海地区学校図書館研究大会(豊田大会)を開催

●会場 8/7(全体会)豊田市民文化会館大ホール

8/8(分科会)愛知工業大学10号館

●テーマ 「新しい時代を拓く学校図書館の創造」

●全体会 記念講演「本と詩と音楽と」

詩 人 谷川俊太郎氏

音楽家 谷川 賢作氏

児童文学者 水内喜久雄氏



坪井富士男事務局長



研究大会全体会

●参加者 1304名

●分科会 3部会、24分科会(他に、読書サロン)

- 11.29 愛知県学校図書館研究会「創立40周年」記念祝賀式典

●会場 ルブラ王山

●参加者 100名余 ※「創立40周年記念誌」発刊

- ※9～10月 第49回青少年読書感想文愛知県コンクールの実施

- ※7～10月 平成15年度読書うぶんコンテストの実施

- ※1月 第15回読書感想画愛知県コンクールの実施

- ※2月 読書うぶんコンテスト表彰式

- ※読書感想文集「天空」の発行

- ※愛知県学校図書館研究紀要 No.45の発行



研究大会記念講演



研究大会分科会

〈司書教諭の配置とOA化の動き〉

平成15年度より、「学校図書館法」に規定されていた司書教諭が、12学級以上の規模の学校に配置される。これは、平成9年度に「学校図書館法の一部を改正する法律」が成立したものである。今後、学校図書館運営に大きな役割を果たすことが期待される。また、21世紀を迎え、各都市の小中学校及び高等学校の学校図書館にコンピュータを配置する動きが、加速されつつある。これによって、学校間・公立の図書館をネットワークでつなぐことが可能になるなど、新時代の学校図書館運営の展望が開けてきた。

おもいで

図書館馬鹿



平成5年度会長 中野基文

思い起こせば、昭和32年に教職に就き、折しも「学校に図書館を」の時代、先輩の指導を受けながら遅くまで図書の整理に追われた日々、そうした中で司書教諭の講習を受け図書館に携わる資格を得たアツという間の5年間、いつの間にか図書館馬鹿になっていた。教育課程に利用指導の時間確保・家庭に親子読書・家庭に書棚をと夢を追っていた。子ども達を本と向かい合わせ、読んだり読ませたり、調べさせたり、果たして今彼等の人生に役立っているかどうか、プラスになっていることを願わずにはいられない。昭和43年、名古屋市で開催された全国学校図書館研究大会で「利用指導」の部会で発表したことが、まだ生々しく思い出される。その時はじめて全国学校図書館協議会の存在を知った。以後何かとかかわりを持ってきたように思う。図書館族と言われる国会議員への司書教諭を各校配置の陳情、出版会社への良書の発行、子どもの本屋さんとの係わり等を通じ学校図書館が大きな渦の中で存在することを知った。平成2年、事務局長の時には、読書感想画コンクールに愛知県も参加して欲しいと全国SLAから打診があったが過去の経緯から参加について激論を交わしたことを思い出す。難産であった。

平成5年、東海地区学校図書館研究大会を半田市で開催、多くの諸先輩に支えられ重責を果たすことが出来た。また、同年県図書館協会負担金値上げに伴う会費値上げについても、県校長会の支援を受けて値上げが出来、諸先輩の温情に支えられ図書館馬鹿が会長職を全うすることができました。

(現、全国SLA学校図書館活動推進委員会委員)

朝の読書が奇跡を生む



平成6年度会長 鈴木定夫

平成6年度の愛知県学校図書館研究会総会の折、私は1冊の本を紹介した。千葉県立舟橋女子学園高校の「朝の読書が奇跡を生んだ」というインパクトの強いこの本に会員は目の色を変えた。荒れた学校が朝の読書によって遅刻、私語がなくなり、落ち着きを取り戻したという素晴らしい実践であった。私は、これを県内に啓発すべく先ずは隼より始めようと自校で実践することにした。高校でやれたのなら、小学校ならもっと簡単。毎朝の10分間を全校読書タイムとし、低学年には担任の読み聞かせを励行。校長教頭が率先して読み聞かせを行えば、更にムードは高まる。お蔭で、毎年少しずつ朝の10分読書が定着していったように思う。県大会(平成6年11月11日豊川)には、児童文学作家の角野栄子さんを招聘して「お話の宅急便」と題して講演をお願いした。「魔女の宅急便」の作者で超売れっ子作家であったので大盛況。サイン色紙を学校の図書館に飾り、子どもたちの読書意欲を駆り立てたものだ。そして、図書館を必要とする授業を工夫し、あの手この手で読書活動を展開していった。

あれから10年、愛知県はもとより全国で読書運動は高まり、全校体制で取り組む学校が増えている。4月23日は、「子ども読書の日」と制定され、また念願の司書教諭も配置され、形の上ではずいぶん整ってきている。県学校図書館研究会のたゆまぬ努力の賜物であろう。まだまだという声も否めないが、子どもたちの読書体験を充実させるべく、現場の先生方が踏ん張っていることに敬意を表したい。読書離れの進む中、子どもたちの読書環境を整えるために私も陰ながらできる限り応援していきたいと思う。



マルチメディア時代に期待される司書教諭

平成7年度会長 高橋 邦 肇

愛知県学校図書館研究会の創立40周年をお祝い申し上げます。折しも、学校図書館に携わる者の念願でありました司書教諭が置かれることとなった記念すべき年度となりました。会長を勤めさせていただいた時期の関心事は、司書教諭の設置が議員立法で提出されるかどうかでありました。

昭和29年4月から施行された学校図書館法の附則に「学校には、当分の間、第五条第一項の規定にかかわらず、司書教諭を置かないことができる」とされ、「当分の間」は半世紀後に「学校には、学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければならない」の実現となりました。司書教諭の活躍を期待されての学校図書館活動の新たなスタートであります。

また、この機に文部科学省は、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、教育課程の展開に寄与する学習センターとしての機能とともに、児童生徒の自由な読書活動や読書指導の場として、さらに創造力を培い学習に対する興味・関心等と呼び起こし豊かな心を育む読書センターとしての機能を期待しています。さらには、マルチメディア時代に対応した学校図書館として、視聴覚機器、情報機器の整備に、地域のボランティアの活用等による開かれた学校図書館づくりの推進を要請しています。このような動向に対して、25年前の米国の高校では、図書館はメディアセンターと呼ばれ学校の中央に設置され、書物のみならず、コンピュータが相当数備えられ、たくさんの生徒が自学自習していた光景を思い出します。

本県の学校図書館研究会が21世紀の学校図書館のあり方を追究されんことを祈念申し上げます。



学校図書館の明と暗

平成8年度会長 石川 利彦

今回、40周年の記念誌が出るというお便りをいただき、30周年の記念誌について役員会で話し合っていた現役時代のことがつい昨日のことのよう思い出しました。

私も30数年、教員生活の大半を学校図書館教育に参画した中で、諸先輩にいろいろ教えていただきながらの思い出が数多くあります。その中でも、特に心に残っていることと言えば一つは、東海地区学校図書館研究大会を半田市で行ったことです。尾張のローテーションでは、一宮地区になるはずでしたが、30数年毎に1回ずつ回って来る大会がローテーション通りやっているといつも一宮地区になってしまうので、知多でやって欲しいということになり、教育委員会から現場に戻った丁度その年でしたが、地区大会実行委員長の肩書きのもとで微力を尽くさせていただきました。二つ目は、当時、学校図書館賞というのが毎日新聞の主催で行われており、文部省の後援のもと、優良学校図書館の表彰があり、学校図書館教育に携わる関係者の励みになっていましたが、折からのバブル崩壊のあおりを受けて、打ち切り話があり、私が会長の年度でもありましたので、三河・高校の代表の方々と継続のお願いに行きましたがかなえられず、断腸の思いをした覚えがありました。三つ目としては、学校図書館法の改正が実現に向かい、各学校に司書教諭を置くことが実現の方向に向かい、学校図書館教育に携わる人たちの悲願が実ったことです。

いずれにしても、学校図書館教育を通して、素晴らしい人たちに巡り会えたことは私の財産でした。



一以て貫きたきもの

平成9年度会長 高 須 正 義

孔子の、「吾が道は一以て之を貫く」という言を聞くや、高弟の曾子はさすがに、「それは『忠恕』といって、先生が自身の生き方の基として考えてみえること」と察知していたのでした。

もし私に「子どもの育ちから成長までの糧として最も大切なものの一つは何か」と問われたとしたら、私は躊躇なく「読書」と答えるでしょう。その理由として美智子妃殿下講演のうち、「読書の意義」の箇所より引用させていただきます。—— 子供たちが、自分の中にしっかりと根を持つために。子供たちが、喜びと想像の強い翼を持つために。子供たちが、痛みを伴う愛を知るために。——

私は平成9年秋に幡豆町の教育委員会に入りましたが、平成13年4月より「ブックスタート」を開始させました。これは、「赤ちゃん和絵本を一緒に楽しもう。お母さんと赤ちゃんが絵本で喜びを分かちあおう。」という呼びかけで1992年にイギリスで始まったものです。地元の読み聞かせボランティアグループの全面協力を得て、町内で生まれてくる赤ちゃん全員とそのお母さんに対して、絵本のプレゼントと読み聞かせの手ほどきを始めて3年目に入っています。読み手の「いないいない、ばあ」の声とともに次ページに現れたくまさん。生後半年未満の首も座らないような乳児が目を見開き、くまさんに釘づけになる。その時、読み手と赤ちゃんとの間にビビと通じた温かいモノを感じます。

町図書館では幼児へ読み聞かせ行事を設け、町内全ての学校で読書タイムをやっています。今後は青少年、大人の読書に親しむ環境づくりと心育をいかにしていくかが課題です。



継続は力なり

平成9年度会長 石 黒 石 根

私が県のSLAと直接関わったのは会長になったその年と翌年の2年間だけでした。当時もう少し勉強させてもらってからと高須前会長に固くお断りしたにもかかわらず、平成9年度の途中から会長を引き受けることになったことが今でも思い出されます。

でも、犬塚事務局長を始め、周りの方々の絶大なご支援とご協力のおかげで、第34回の西尾市での研究大会が無事終え、他の事業も滞りなく終了できました。この場をお借りして、会の運営に携わった多くの方々に、改めて感謝申し上げます。

さて、学校図書館の存在についてですが、昭和33年の学習指導要領の改訂に伴い、系統学習を重視するようになってから、「学校図書館を必要とする教育」が、総合的な学習が叫ばれるようになったつい最近まで行われてこなかったことを痛切に感じるのは、私だけではないと思います。そして、その「学校図書館を必要としない教育」のさなかにあって、黙々と学校図書館の教育に尽力された方々に接することができ、ほんとうに頭の下がる思いがしました。

私は冒頭に述べたように、ほんのちょっと顔を出させていただいた人間です。先輩や後輩の方々とは苦勞を共にするということはありませんでした。しかし、何十年と継続して取り組んでみえる先生方に対して、改めて「水を飲むときは、井戸を掘った人の苦勞を忘れてはならない」ということばをかみしめると同時に、県のSLAの今後のさらなる発展を陰ながらお祈りいたします。



善は善、悪は悪だとはいうものの

平成10年度会長 村 本 邦 夫

当時、巡り合わせでこの役を担当することになりました。お蔭様で、学校図書館について高い見識と情熱をもった多くの人達に出会うことができ、とても勉強になりました。

思い出すこととしては読書感想文の剽窃の件があります。

中央の担当者から連絡がきました。すぐに組織としての対応を考えました。ところが事実上、入賞の取り消しはできないということでした。該当校では、全校朝礼で校長が披露し、その生徒を誉め称えたとのことでした。すでに学校の新聞にも掲載されている。県の表彰式には、家族まで喜んで会場へ来ることになっているとのこと。

どういう心境でこのようなことがひき起こされるのか分かりません。でも、善は善であり悪は悪です。悪を是認することは許されないが、教育的配慮という言葉は深い意味を持ちます。

全国的な入賞ともなれば、学級、学校、地区、県、中央などのその審査には多くの人がかかわっています。その結果得た入賞という判定です。これを取り消すことの災いは大きすぎます。

この仕事に多年携わってきた方でも限界があります。作品が公表されてから指摘を受けることもあり得ます。結局は、一番元の、クラス担任とか、教科担当とかがこの面の注意を払う必要を感じます。その児童生徒の感性、思考力、文章力とその傾向をよく知っているはずであるからです。



学校図書館活動の思い出

平成11年度会長 石 川 健 二

昭和54年、東海市のある中学校の図書館主任に指名されたことが学校図書館活動との出会いであった。それから約20年間、学校図書館活動に携わってきた。また、平成3年から10年間、愛知県学校図書館研究会の理事・役員をやらせていただいた。この間、もとより微力な私であったが、多くの人に支えられ数多くのことを体験させていただき感謝の念で一杯だ。

最大の思い出は、平成5年度の夏に開催された第26回東海地区学校図書館研究大会である。この大会は、県大会と兼ねて半田市文化福祉会館（雁宿ホール）を中心に開催された。

大会の企画・運営は、県組織で行ったのであるが、その実務は知多地区で受け持った。その時、私は知多地区の事務局を担当していた。県の会長さんや知多地区の部長さんの指導を仰ぎながら平成3年度から準備を進めた。知多地区役員会を何回も開き立案し、県組織の三部会や理事会に提案した。さらに東海地区の4県1市の会長・事務局長で構成する研究大会評議員会を半田市で2回開き検討を重ねた。一番心配したことは、1,300名の参加を見込んで計画したが、それだけの人が参加してくれるかどうかであった。案の定、締切日までには、1,000名弱の参加申込みであった。参加費によって大会が運営される関係で、参加者が少ないと運営に支障をきたす。あれこれ心配したが、当日参加を含めて1,300名近くになり、ほっとした記憶が今でも鮮明に蘇ってくる。知多地区の部員約150名を総動員させて大会を運営したことは、よき思い出となった。



教育改革真ただ中で

平成12年度会長 加藤 和彦

北設の小さな中学校の図書主任になったのが、学校図書館と関わりを持つようになった最初でした。学生時代に多少勉強し、予備知識はあったものの、机上と現場とは大違いで、「こんな大変な仕事はどうもならん」と、何度やめようと思ったことかわかりません。しかし、一心に本を読む子どもを前にすれば、この決意も崩れ、以来、断続的に図書館活動に関わることになってしまいました。新任の頃、高山市で開かれた東海大会を初めとして、県大会はもちろん、全国大会にも時々参加し、その都度、崩れそうになる気持ちを奮い立たせてきたように思います。

最後の数年間は、三河、県の役をいただき、多くの方々と顔見知りになるとともに、その何倍もの方々に助けをいただき、つらい中にも充実した活動をすることができました。

平成12年度の県大会は、18年ぶりに地元豊橋が会場となり、豊橋市はもちろん、近隣の市町の全面的な協力をいただき、成功裏に終えることができたのもなつかしい思い出となっています。ちょうどこの年は、新しい学習指導要領の移行期間に入った年として、教育改革真ただ中の時でした。そこで、21世紀の新しい教育に向けて、学校図書館は何をなすべきか、基本的な理念や在り方、当面する課題などについて共に考えよう、ということでテーマを「新しい教育の中核を担う学校図書館」とし、全国S L A理事長笠原良郎先生のご講演をいただきました。

本研究会も40年が経過しましたが、今後も多くの方の手で大切に育てていただきたいと思います。



めぐりあわせ

平成13年度会長 豊 永利英

最初の赴任校は小学校だった。分掌は「図書」。張り切って図書の整理をし、分類まで改めた。3年の後、高校に転出した。やはり分掌は「図書」だった。新設まもない学校で、図書の充実が急がれていた。授業は6時間だけ、図書の選定、分類、整理、カード作りに明け暮れた。そして、この学校での6年間を最後に、ぷつぷり図書の仕事とは縁が切れた。(・・・かに見えた。)

後年、校長を拝命すると、再び「学校図書館」との縁が復活する。教員としての38年間の最初と最後に学校図書館と深くかかわることになるのだった。履歴書の「免許」の欄に記入した「司書」によるのだろうか。

さて、会長を務めた年、図書館協会から学校図書館研究会を分離する話が持ち上がった。

戦後、協会は学校図書館をも包括して、青少年の読書活動を支えてきた。やがて時代の流れとともに、学校図書館の充実が図られ、学校図書館研究会も独自に活動できるまでになっていった。詳しく記す紙面はないが、業務の面からも財政の面からも分離独立が互いに好影響を及ぼすと判断して、発展的な形で分離独立することになったのだった。

ところが、すでに10年も前に、分離独立を推進しようとした慧眼の主がおられたのを「30周年記念誌」で知った。機が熟するのに10年の歳月を要したことになる。学校図書館の活動は、どの一つを取り上げても、一息では片のつかないものばかりであるようだ。



新たな歩みー協会からの分離独立の年ー

平成14年度会長 山 田 博 司

平成14年度は、愛知県学校図書館研究会が新たな歩みを始めた年となりました。それは、本研究会が愛知図書館協会から分離独立したからです。協会との38年間の歩みから分離独立したきっかけは、平成13年度に46年間の実績と伝統をもつ「愛知県読書感想文コンクール」の表彰式が廃止されたことにありました。協会から「職員数削減のため」という理由で、現場の先生方の思いを伝える期間もなく決定されたのです。私自身も廃止には残念至極で、協会に失望しつつ怒りさえ覚えました。

平成14年度、私はやむなく会長の重責を負うこととなり、表彰式の復活を考えましたが、結局は数十万余編から選ばれた入賞者の児童・生徒を称えることとともに、すばらしい入賞作品を広く知ってもらいたいという願いから、愛知県読書感想文集「天空」を発刊することとなりました。「突き抜けるような大空は、子どもたちの果てしない夢を育み、広がる未来を示す」の意のもと読書感想文を書くことは、豊かな心と深く考える力を育んでくれる根拠となることを確認したのです。

「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定され、新しい時代の図書館の創造をめざしたこと、愛知県学校図書館研究大会のこと、読書感想文コンクールの各地区・中央審査会のこと、愛知県読書感想文集「天空」発刊のこと、全国学校図書館協議会の理事であったこと、そして献身的にご尽力下さった先生方との出会いのこと、等々が懐かしく、うれしく甦ってきます。



平成5年東海地区学校図書館半田大会の思い出

平成5年度事務局長 馬 場 隆 敏

その日、会場の半田市福祉文化会館へ足を踏み入れたとき、あっと驚かされた。なんと、新美南吉の作品の数々が緞帳になっているではないか。「ごんぎつね」がある、「おじいさんのランプ」がある、「牛をつないだつばきの木」がある……。その一つ一つの絵は市内の小学生の手になるものだそうである。とてもカラフルな中にも子どもらしさや温かみにあふれていたのは当然である。その緞帳の絵は、前回の「創立30周年記念誌」の表紙を飾った。その絵を見るたびに、あのときの感動や驚きがよみがえってくる。

あれから、10年が経ったことになる。平成5年8月24・25日の2日間、第26回東海地区学校図書館研究大会は半田市で開催された。学習指導要領の改定を受けて、「自ら学ぶ意欲と豊かな心を育てる学校図書館のあり方を求めて」のテーマの下、各県から1,200名余の参加を得て、大変な盛況で実り多い大会となった。このことは、知多地区の先生方、とりわけ地元半田市の先生方のご尽力によるものである。小生などは、名前だけの大会事務局長であったことを申し訳なく思う。

振り返ってみると、平成5年は学校図書館がその充実に向けて大きく一步を踏み出した年でもあったように思う。文部省は、総額500億円を措置し、「学校図書館図書整備新5か年計画」をスタートさせ、蔵書数を1.5倍にすることを目指した。また、大会ではコンピュータの導入を踏まえた見学コースも設けられたりした。この潮流が、平成9年の学校図書館法の改正につながり、本年度の司書教諭の発令につながってきたと思う。この流れを受け継ぎ、さらに発展させるべく努力していきたい。

読書感想文コンクール のあゆみ

読書感想文コンクールは、昭和29年、愛知図書館協会の一事業としてスタートした。翌昭和30年から全国SLA・毎日新聞社主催の青少年読書感想文全国コンクールが始まるとともに、それに合流し、県コンクールとして今日に至っている。この間、勤労青少年の部の新設・部門別の制定・第3類の新設があった。

審査以外のコンクールに関する多くの事務は愛知県図書館協会に委ねられていたが、愛知県学校図書館研究会が愛知図書館協会から分離独立したため、審査と諸事務の両方を愛知県学校図書館研究会単独で行うこととなった。

そうした経緯から、平成13年度の第47回のコンクールから、小中学校においては名古屋、尾張、三河の地区審査にて県のコンクールの審査も行うこととした。勤労青少年の部については高等学校で審査することとなった。また、伝統ある入賞者の表彰式を取りやめることになったので、14年度から、入賞者を称えとともに、素晴らしい入賞作品を広く知ってもらいたいという願いを込め、読書感想文集「天空」を発刊することとなった。

このようにコンクールの審査の日程、および事務の手続き等は時の流れとともに変化したが、審査そのものは従来どおり厳正に行われ、何ら変わることはない。読書感想文を書くことを通して児童・生徒が心をどのように拓いたか、はば広いものの見方・考え方を身につけたかを読み取り、的確で力のある表現によって編まれた文章を選んでいくばかりである。

ところで、朝の読書を実施する学校が全国で一万校を越したという。今後は、朝の読書にかかわらず、各学校における読書指導のあり方がますます問われるだろう。読書感想文の書き方指導もさることながら、読書自体のあり方を考え続け、徹底した取り組みをしていく姿勢を持ちたい。

校種別	年度 (回)	平成5年度(39)		平成6年度(40)	
	数	学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数
小 学 校		727	281,452	731	274,385
中 学 校		303	163,043	306	155,241
高等学校		134	94,152	126	82,686
盲・聾・養護学校		14	508	16	470
合 計		1,178	539,155	1,179	512,782
全 国 コ ン ク ー ル 入 賞 者	◎全国学校図書館協議会長賞 ●小学・3年・2類 小牧市立本庄小 増田和浩 「ぼくはカエルはかせ」		◎毎日新聞社賞 ●中学・3年・3類 弥富町立弥富中 阪野真依 「『きらめいて川は流れる』を読んで」		
			◎全国学校図書館協議会長賞 ●小学・2年・1類 瀬戸市立幡山東小 山田沙慧 「きょうりゅうーびきく ださい」		
			●小学・4年・3類 刈谷市立平成小 大原達也 「『少年の海』を読んで」		
			●小学・5年・3類 一宮市立丹陽南小 野田大志 「『あばれ天竜を恵みの流れに』を読んで」		
			●高校・2年・2類 県立尾北高 浦野真紀 「生きることの意味をもとめて」		

校種別	年度 (回) 数	平成7年度(41)		平成8年度(42)		平成9年度(43)		平成10年度(44)	
		学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数
小 学 校		982	378,712	716	238,630	723	240,220	728	228,623
中 学 校		419	206,039	301	139,744	301	138,152	306	130,697
高等学校		135	82,686	142	79,484	142	74,580	138	69,374
盲・聾・養 護 学 校		16	470	16	367	16	433	17	647
合 計		1,552	667,907	1,175	458,225	1,182	453,385	1,189	429,341
全 国 コ ン ク ー ル 入 賞 者		◎内閣総理大臣賞 ●中学・2年・3類 津具町立津具中 河野由実 「『愛と悲しみの12歳』 を読んで」		◎内閣総理大臣賞 ●小学・3年・2類 高浜市立吉浜小 岩井喜博 「『ポップコーンの科学』 を読んで」		◎毎日新聞社賞 ●小学・4年・3類 半田市立花園小 東 慧一 「ときをこえた友情」		◎全国学校図書館協 議会長賞 ●小学・1年・1類 瀬戸市立效範小 都世子 壘 「ぼくもがんばるから ね!」	
				◎毎日新聞社賞 ●小学・4年・1類 岡崎市立竜美丘小 荒井俊介 「『宇宙人のいる教室』 を読んで」		◎全国学校図書館協 議会賞 ●中学・1年・2類 犬山市立犬山中 山田哲弘 「『ものを食う人びと』 を読んで」		◎全国学校図書館協 議会長賞 ●小学・2年・2類 豊田市立大林小 原田基至 「『水にうくものしずむ もの』を読んで」	
				◎全国学校図書館協 議会長賞 ●小学・3年・2類 東浦町立緒川小 津川将輝 「ことわざで勝負」					
				◎全国学校図書館協 議会長賞 ●中学・1年・3類 豊橋市立豊城中 鈴木いつか 「おじいちゃんに花束 を」					

校種別	年度 (回) 数		平成11年度(45)		平成12年度(46)		平成13年度(47)		平成14年度(48)	
	学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数
小 学 校	724	96,797	724	202,657	723	199,469	736	199,562		
中 学 校	308	5,567	309	111,676	276	108,636	308	99,836		
高等学校	135	89	128	64,647	132	62,354	133	63,274		
盲・聾・養 護 学 校	16	75	16	469	16	475	15	432		
合 計	1,183	102,528	1,177	379,449	1,147	370,934	1,192	363,104		
全 国 コ ン ク ー ル 入 賞 者	◎毎日新聞社賞 ●中学・2年・3類 弥富町立弥富中 阪野将司 「「つなげる命」から「つな がる命」へ」		◎毎日新聞社賞 ●小学・2年・2類 春日井市立東野小 中谷悠紀 「ざりがに」を読んで		◎文部科学大臣賞 ●小学・4年・3類 大府市立石ヶ瀬小 伴 美沙希 「自分を大切にすること」		◎全国学校図書館協議 会長賞 ●小学・2年・3類 一宮市立葉栗小 山口将史 「けんかもいいな」			
	◎全国学校図書館協議 会長賞 ●小学・2年・2類 犬山市立楽田小 服部瑞貴 「天気よほうができたよ!」				◎毎日新聞社賞 ●高校・1年・2類 県立瑞陵高校 阪野将司 「千畝から継承するもの」		◎サントリー奨励賞 ●小学・5年・3類 東郷町立高嶺小 石本結香 「親愛なるパーティーア ンドリュース様」		◎サントリー奨励賞 ●小学・2年・3類 江南市立門弟山小 水野啓太郎 「かさぶたくんはえらい」	

読書感想画コンクール のあゆみ

読書感想画は、読書によって得た感銘や感想、さらにそれから発展した情景や幻想を絵画表現するものである。心のうちにあるものを絵画として表現するために、子供なりの苦心や楽しみがあり、それが読書力・表現力を養い、読書活動をさらに楽しく充実したものにすることに違いない。

また、新学習指導要領で、「感じたことや思ったことを絵や立体に表現する」(小学校)「感動、想像による主題の表現」(中学校・高校)がうたわれており、まさに読書感想画は、これに直結しているものであると考えられる。

読書感想画の募集は、平成元年に全国学校図書館協議会と毎日新聞社主催の読書感想画中央コンクールと合流し、県コンクールとして今日に至っている。

夏季の読書感想文に続いて、冬季は読書感想画ということで、年間を通して読書活動を活発にしたいという考えですすめられている。

今後も、じっくり本を読みこなし、形・色・構図などに本の重みを感じさせるような生き生きとした表現が生まれることを期待したい。

校種別 年度 (回) 数	平成5年度(5)		平成6年度(6)	
	学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数
小 学 校	355	73,346	478	86,779
中 学 校	55	4,484	97	5,906
高等学校	15	519	16	445
盲・聾・養護学校	6	149	4	93
優 秀 賞	●稲沢市立稲沢東小 1年 吉村 祥伍 ●蒲郡市立竹島小 2年 鈴木 朋美 ●岡崎市立北野小 4年 伊奈 宏文 ●尾西市立三条小 6年 中村 有希 ●安城市立安城南中 3年 太田 剛 ●小牧市立味岡中 2年 杉野 千晶 ●起工業高等学校 2年 毛戸 幸子 ●東邦高等学校 2年 山口 暁代		●豊橋市立八町小 3年 鈴木 俊介 ●一宮市立末広小 3年 徳田 あい ●一宮市立葉栗小 5年 石井久美子 ●岡崎市立梅園小 6年 桑子創太郎 ●豊橋市立羽田中 2年 市橋 昌子 ●知多市立東部中 1年 佐藤 奈緒 ●椋山女学園高校 2年 中野 治子	
優 良 賞	●岡崎市立六ツ美北部小 2年 中根 高志 ●江南市立布袋小 3年 横山 蘭里 ●半田市立半田小 6年 大島 聡 ●岡崎市立梅園小 5年 平井えりか ●半田市立青山中 3年 樋高 愛 ●常滑市立南陵中 3年 久田 育代 ●椋山女学園高校 1年 中野 治子 ●大府養護学校 小3 藤村 和哉		●江南市立古知野西小 3年 和田ありさ ●岡崎市立三島小 2年 織田 博 ●岡崎市立恵田小 4年 市川 博規 ●知多市立旭北小 5年 齊藤 映子 ●春日井市立高蔵寺中 1年 亀谷 美咲 ●岡崎市立南中 2年 有馬 理恵 ●明和高校 2年 北折 奈美 ●名古屋短大付属高校 2年 花井真知子	

校種別	年度 (回) 数		平成7年度(7)		平成8年度(8)		平成9年度(9)		平成10年度(10)	
	学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数
小 学 校	481	94,276	485	94,421	508	92,358	664	87,827		
中 学 校	93	7,415	87	6,594	94	5,229	99	5,480		
高等学校	13	68	11	57	16	71	17	1,120		
盲・聾・養 護 学 校	5	44	5	46	7	67	12	67		
優 秀 賞	●一宮市立赤見小 2年 虫鹿 千尋 ●岡崎市立梅園小 3年 竹内 佐織 ●岡崎市立三島小 6年 鈴木 琢也 ●扶桑町立柏森小 5年 西岡 千華 ●稲沢市立千代田中 3年 高木 綾子 ●岡崎市立南中 3年 服部 真子 ●椋山女学園高校 3年 中野 治子 ●豊橋聾学校 小1 伊藤 千里		●岡崎市立恵田小 3年 市川 久乃 ●一宮市立瀬部小 3年 熊澤 雄基 ●犬山市立栗栖小 6年 仙石 尊昭 ●岡崎市立上地小 6年 栗田このみ ●岡崎市立新香山中 3年 後藤 律子 ●春日井市立石尾台中 2年 加藤 絵美 ●名古屋短大付属高校 2年 神谷 繭子 ●豊橋聾学校 小2 伊藤 千里		●南知多町立内海小 1年 林 未佳 ●碧南市立新川小 1年 藤浦 悠希 ●岡崎市立北野小 4年 杉山 英子 ●東浦町立片葩小 4年 森谷 敦志 ●武豊町立武豊中 1年 榊原 早織 ●田原町立田原中 2年 鳥居 史絵 ●名古屋短大付属高校 3年 神谷 繭子 ●起工業高校 2年 佐藤 宏美 ●豊橋聾学校 小1 柴田 梨衣		●岡崎市立緑丘小 2年 小口 詩織 ●春日井市立牛山小 2年 山下 雄太 ●常滑市立三和小 5年 都築 亜純 ●豊橋市立二川南小 4年 大久保しおり ●安城市立桜井中 3年 野村香奈子 ●春日井市立石尾台中 2年 土屋 志野 ●愛知淑徳高校 3年 栗原めぐみ ●豊橋聾学校 小1 白井 民子			
優 良 賞	●岡崎市立六ツ美中部小 3年 織部 清孝 ●一宮市立瀬部小 2年 黒田 拓也 ●七宝町立七宝小 5年 鰐部麻里絵 ●岡崎市立井田小 4年 長谷川 遙 ●豊橋市立東部中 2年 板橋フミ子 ●小牧市立光ヶ丘中 3年 荒川裕美恵 ●起工業高校 2年 井上 綾子 ●東郷高校 2年 深谷 和紀		●七宝町立七宝小 2年 川原 一輝 ●岡崎市立連尺小 1年 太田 祐真 ●安城市立里町小 3年 竹内 明子 ●七宝町立七宝小 6年 浅野 史明 ●佐織町立佐織中 2年 吉井 舞 ●岡崎市立南中 3年 加藤 悠 ●椋山女学園高校 1年 広瀬めぐみ ●西尾高校 1年 神谷 真弓		●岡崎市立竜美丘小 1年 山田 裕貴 ●佐織町立草平小 2年 山田なぎさ ●半田市立宮池小 5年 丹羽 佑太 ●岡崎市立三島小 6年 山本智恵子 ●豊橋市立豊岡中 2年 藤本 愛 ●小牧市立光ヶ丘中 3年 荒川奈津枝 ●名古屋短大付属高校 1年 佐藤麻衣子 ●名古屋短大付属高校 3年 辻原 明穂		●南知多町立豊浜小 2年 大岩 玲香 ●豊川市立東部小 2年 大須賀裕貴 ●岡崎市立上地小 5年 小坂真奈美 ●一宮市立神山小 6年 木野 愛子 ●豊明市立沓掛中 1年 寺脇 理恵 ●田原町立田原中 3年 鳥居 史絵 ●西尾高校 1年 村井亜紀子			

校種別	年度 (回) 数		平成11年度(11)		平成12年度(12)		平成13年度(13)		平成14年度(14)	
	学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数	学校数	応募作品点数
小学校	613	96,797	588	98,451	392	98,428	444	95,598		
中学校	107	5,567	94	3,775	102	3,098	85	2,585		
高等学校	14	89	12	81	16	102	13	104		
盲・聾・養護学校	10	75	9	83	8	93	7	74		
優 秀 賞	●尾西市立朝日東小 2年 森 裕也 ●岡崎市立大樹寺小 3年 寒藤 康信 ●岡崎市立井田小 4年 猪原 祥平 ●一宮市立瀬部小 5年 原 佑一郎 ●私立聖霊中 2年 松下 佳代 ●豊橋市立青陵中 1年 三浦真理子 ●西尾高校 1年 柴田 絵美 ●東郷高校 1年 山田 和政 ●三好養護学校高等部 3年 板倉 賢		●安城市立明和小 3年 鈴木 雅子 ●津島市立神島田小 3年 堀田 翔平 ●美和町立東小 4年 平松 築 ●岡崎市立井田小 5年 遠藤 寛士 ●岡崎市立甲山中 1年 壁谷 庸佑 ●大口町立大口中 3年 戸田 絢子 ●愛知淑徳高校 2年 倉橋 恵美 ●豊橋聾学校 小2 平田さおり		●尾西市立大徳小 1年 佐藤 駿太 ●岡崎市立藤川小 3年 石井 星光 ●安城市立明和小 4年 鈴木 貴子 ●瀬戸市立掛川小 6年 平野 雅貴 ●東浦町立東浦中 3年 米村和歌子 ●知立市立知立南中 1年 鈴木香名江 ●椋山女学園高校 2年 大塚 茜 ●一宮東養護学校高等部 2年 梅谷 健太		●安城市立桜町小 1年 西村 優希 ●佐屋町立市江小 3年 河野 誠太 ●一宮市立瀬部小 6年 斉藤 和馬 ●岡崎市立藤川小 5年 平岩 紀人 ●安城市立篠目中 3年 古井 晶子 ●佐織町立西中 1年 堀田 明里 ●千種高校 2年 寺本 有季 ●一宮東養護学校高等部 1年 渡辺 翔			
優 良 賞	●刈谷市立富士松東小 2年 後藤 佳帆 ●佐屋町立市江小 1年 佐藤 鮎美 ●稲沢市立千代田小 6年 小崎 優 ●岡崎市立井田小 5年 近藤 圭一 ●安城市立安祥中 3年 川上 文子 ●春日井市立松原中 2年 山越 理恵		●美浜町立河和小 3年 新美 葉月 ●岡崎市立井田小 1年 倉橋 愛子 ●豊田市立中金小 6年 安藤 三央 ●一宮市立中島小 4年 山口 えり ●武豊町立武豊中 3年 出口友佳子 ●豊川市立南部中 3年 金村 知香 ●起工業高校 3年 日比野翔史 ●起工業高校 1年 竹内 壮 ●椋山女学園高校 1年 大塚 茜		●安城市立作野小 3年 東奈 央子 ●常滑市立西浦北小 1年 三浦健太郎 ●尾西市立朝日東小 4年 名倉 叶恵 ●岡崎市立緑丘小 6年 栗生 智香 ●岡崎市立新香山中 3年 中川 桜子 ●東浦町立東浦中 2年 小林彩智枝 ●千種高校 2年 武藤 麻衣 ●千種高校 2年 石原 沙織 ●愛知啓成高校 1年 戸田 絢子 ●岡崎聾学校小学部 1年 伊藤 綾乃 ●一宮聾学校小学部 3年 坪井隆比古 ●大府養護学校小学部 6年 葛野明日香 ●一宮東養護学校高等部 1年 真下 祐子 ●一宮東養護学校高等部 3年 加藤 智子		●美浜町立河和小 3年 岩下 将大 ●豊田市立堤小 1年 波左間 翔 ●豊田市立元城小 6年 梅村 夏希 ●一宮市立中島小 6年 平松 真吾 ●平和町立平和中 2年 三井 志保 ●豊橋市立羽田中 1年 水谷 知泰 ●椋山女学園高校 2年 河内麻耶子 ●椋山女学園高校 3年 大塚 茜 ●一宮東養護学校高等部 2年 今井 りか ●一宮東養護学校高等部 2年 中川 智宏 ●一宮東養護学校高等部 2年 田島 一輝 ●岡崎聾学校小学部 1年 十河 佳季 ●岡崎聾学校小学部 2年 伊藤 美優 ●起工業高校 1年 武田由李恵			

読書ゆうびんコンテスト のあゆみ

平成13年度には「東海四県読書ゆうびんコンテスト」も10回を数え、「読書感想文コンクール」・「読書感想画コンクール」と並んで読書推進運動の一つとして定着してきた。

「読んで楽しかった本、感動した本について、はがきに文章とイラストで表現して友だちや家族に薦める」というコンクールの趣旨も広く浸透し、年毎に応募数も増え、小学校1年生の素直な作品から中学校3年生の芸術的な作品まで優れた作品が多く応募された。

10回という大きな節目を終え、平成14年度から「2002年度読書ゆうびんコンテスト」と名称と実施内容を変更し、新たな第一歩を歩み始めた。

今後も読書による感動の気持ちを育んで欲しい。以下にその変更点を示す。

- ①コンテストの運営・実施が愛知県学校図書館研究会が主体となった。
- ②指定図書の応募が例年少なめであったので、指定図書を廃止した。
- ③高等学校の部が新設された。これにより応募資格は、小中学校（盲・聾・養護学校を含む）と高等学校となり、愛知県学校図書館研究会所属の全学校が応募できるようになった。
- ④応募期間を7月1日から10月30日までとした。審査会は12月24日（尾張・高校）・25日（三河）とそれぞれの地区で実施された。その結果10月に行われていた表彰式も、2月15日に変更して実施された。
- ⑤新規に「読書ゆうびん読み聞かせキャラバン」の募集が行われ、「読み聞かせ」や「ブックトーク」を8月から10月の期間で各学校で実施された。

校種別		年度 (回) 数	平成5年度(2)	平成6年度(3)
			応募作品点数	応募作品点数
小 学 校	低学年		25,674	23,509
	中学年		28,546	29,927
	高学年		25,371	26,712
中 学 校			12,800	17,332
高等学校				
合 計			92,391	97,480
最 優 秀				●知立市立知立中 1年 板橋 暁子
優 秀 賞			●一宮市立西成小 1年 浅井さやか ●知多市立旭北小 4年 斎藤 映子 ●知多市立旭南中 2年 香月 佑介	●佐織町立北河田小 2年 若山 春菜 ●岡崎市立緑丘小 6年 青山 峻文 ●知多市立旭北小 5年 斎藤 映子
優 良 賞			●安城市立今池小 1年 増田 晶子 ●岡崎市立石根小 4年 天野 勢菜 ●岡崎市立緑丘小 5年 高橋 幸奈 ●豊田市立若園中 1年 林 美絵	●佐屋町立佐屋小 4年 水谷 文宣 ●知多市立東部中 1年 佐藤 奈緒

校種別		年度 (回) 数	平成7年度(4)	平成8年度(5)	平成9年度(6)	平成10年度(7)
			応募作品点数	応募作品点数	応募作品点数	応募作品点数
小 学 校	低学年		24,713	31,553	28,899	約98,000
	中学年		30,613	38,159	37,759	
	高学年		29,129	35,206	32,533	
中 学 校			13,980	20,469	21,904	約18,000
高等学校						
合 計			98,435	125,387	121,095	約116,000
最 優 秀				●春日井市立不二小 4年 小林万佑子	●碧南市立新川小 1年 岩月あかり ●一宮市立末広小 4年 大野 亜美	●稲沢市立小正小 1年 遠藤 万里
優 秀 賞			●一宮市立末広小 2年 大野 亜美 ●知多市立旭北小 6年 斎藤 映子		●岡崎市立竜美丘小 6年 見並 良治 ●豊橋市立二川中 3年 杉浦あゆ美 ●知立市立知立南中 1年 鳥居 千夏	●岡崎市立緑丘小 1年 内藤 謙伍 ●知立市立知立南小 4年 鈴木香名江 ●安城市立安城東部 5年 江川 卓真
優 良 賞			●豊川市立二川小 2年 中村 勇人 ●安城市立東部小 3年 江川 泰成 ●豊川市立東部小 5年 加藤 裕美 ●甚目寺町立甚目寺中 3年 水野 香織	●一宮市立北方小 2年 後藤 有里 ●豊川市立豊小 2年 宇井誠一郎 ●刈谷市立平成小 6年 大原 達也 ●美和町立美和中 2年 安東 恵子	●蒲郡市立形原北小 2年 藤田 佑平 ●刈谷市立小高原小 2年 高比良 諭 ●一宮市立浅井小 4年 塩田 浩喜 ●一色町立一色東部小 6年 川合 一弘	●一宮市立末広小 5年 大野 亜美 ●岡崎市立矢作中 2年 斎藤 祐佳 ●蒲郡市立中部中 2年 小田 佳美 ●岡崎市立竜海中 1年 見並 良治

校種別		年度 (回) 数	平成11年度(8)	平成12年度(9)	平成13年度(10)	平成14年度
			応募作品点数	応募作品点数	応募作品点数	応募作品点数
小 学 校	低学年		29,151	29,972	33,073	10,261
	中学年		34,193	34,850	35,441	8,894
	高学年		29,913	30,736	31,309	8,048
中 学 校			20,934	25,579	27,697	9,085
高等学校						73
合 計			114,191	121,137	127,520	36,361
最 優 秀			●新川町立桃栄小 4年 恒川 智世	●一宮市立末広小 3年 大野 奈々		(愛知県知事賞) ●瀬戸市立水野小 2年 旭 俊成 ●豊田市立古瀬間小 1年 松崎 光司 ●一宮市立瀬部小 3年 河野 雄太 ●豊橋市立羽根井小 4年 深野沙亜也 ●一宮市立今伊勢小 5年 山田さおり ●碧南市立新川小 6年 岩月あかり ●知多市立八幡中 3年 楠木 千尋 ●豊橋市立豊岡中 3年 白井 那奈 ●愛知淑徳高 1年 杉山 由貴
優 秀 賞				●幸田町立荻谷小 6年 岡島あすな	●春日井市立白山小 2年 太田 佑人 ●一宮市立末広小 4年 大野 奈々 ●新川町立桃栄小 6年 恒川 智世 ●知立市立知立南中 1年 鈴木香名江	
優 良 賞			●瀬戸市立效範小 2年 早川 亜希 ●一宮市立末広小 6年 大野 亜美	●春日井市立神領小 2年 松尾 有紗 ●岡崎市立恵田小 2年 亀井 彩乃 ●岡崎市立竜美丘小 4年 鬼頭沙友子	●豊川市立三蔵子小 2年 横山 有沙 ●春日井市立神領小 3年 松尾 有紗 ●岡崎市立竜美丘小 6年 見並 克俊 ●一宮市立浅井中 2年 塩田 浩喜 ●知立市立八幡中 2年 楠木 千尋 ※14年度から愛知 県分を掲載	(愛知県教育委員会賞) ●一宮市立貴船小 1年 渡辺真里愛 ●碧南市立西端小 1年 牧野 茉莉 ●津島市立西小 3年 山口 佳淑 ●岡崎市立緑丘小 4年 粟生 晃司 ●西枇杷島町立西枇杷島小 6年 林 麻純 ●新城市立東郷東小 5年 長澤 彩加 ●大口町立大口中 1年 中村 佳苗 ●豊橋市立東陵中 3年 岩月 梨沙 ●県立半田東高 2年 佐野 妙子

学校図書館奨励賞年度別入賞校一覧

賞		平成5年度	賞		平成6年度
		校 名			校 名
総合優秀賞	文部大臣賞	一宮市立北方小学校	総合優秀賞	文部大臣賞	藤岡町立御作小学校
	知事賞	下山村立和合小学校		知事賞	清洲町立東小学校
	県教育委員会賞	豊橋市立新川小学校		県教育委員会賞	半田市立成岩中学校
	中日賞	佐織町立草平小学校		中日賞	新城市立舟着小学校
部門優秀賞	読書指導	豊明市立唐竹小学校	部門優秀賞	読書指導	小牧市立村中小学校
	"	弥富町立大藤小学校		"	弥富町立桜小学校
	"	豊田市立朝日小学校		"	半田市立花園小学校
	"	鳳来町立山吉田小学校		"	西尾市立福地南部小学校
	読書整備	東栄町立奈根小学校		"	下山村立田平沢小学校
	管理運営	半田市立成岩中学校		"	豊川市立東部小学校
	利用指導	扶桑町立柏森小学校		"	渥美町立亀山小学校
奨励賞	"	岡崎市立上地小学校	利用指導	"	尾西市立小信中島小学校
				"	東栄町立古戸小学校
		小牧市立小木小学校	管理運営		犬山市立南部中学校
		尾張旭市立旭丘小学校			
		岩倉市立岩倉南小学校	奨励賞		稲沢市立千代田小学校
		平和町立法立小学校			一宮市立中島小学校
		尾西市立小信中島小学校			江南市立古知野西小学校
		弥富町立栄南小学校			春日井市立西尾小学校
		十四山村立十四山中学校			東郷町立高嶺小学校
		常滑市立小鈴谷小学校			津島市立北小学校
		東海市立名和小学校			八開村立八輪小学校
		美浜町立河和南部小学校			東海市立富木島小学校
		岡崎市立常磐南小学校			常滑市立常滑西小学校
		刈谷市立雁が音中学校			半田市立有脇小学校
		刈谷市立刈谷南中学校			西尾市立平坂小学校
		豊田市立野見小学校			刈谷市立小高原小学校
		豊田市立若林東小学校			岡崎市立東海中学校
		下山村立阿蔵小学校			豊田市立市木小学校
		富山村立富山小学校			豊田市立幸海小学校
		作手村立開成小学校			旭町立築羽小学校
		豊川市立豊川東部小学校			東栄町立東栄中学校
		渥美町立亀山小学校			鳳来町立鳳来中部小学校
					豊橋市立豊岡中学校
					小坂井町立小坂井東小学校

賞		平成7年度	賞		平成8年度
		校 名			校 名
総合優秀賞	文部大臣賞	七宝町立七宝小学校	総合優秀賞	文部大臣賞	豊川市立東部小学校
	知事賞	西尾市立福地南部小学校		知事賞	東浦町立石浜西小学校
	県教育委員会賞	犬山市立南部中学校		県教育委員会賞	春日井市立鳥居松小学校
	中日賞	渥美町立亀山小学校		中日賞	岡崎市立上地小学校
部門優秀賞	読書指導	一宮市立中島小学校	部門優秀賞	読書指導	小牧市立小木小学校
	〃	蟹江町立新蟹江小学校		〃	木曽川町立木曽川中学校
	〃	岡崎市立新香山中学校		〃	尾張旭市立旭丘小学校
	〃	豊田市立市木小学校		〃	美和町立東小学校
	〃	足助町立明和小学校		〃	東海市立名和小学校
	〃	新城市立千郷小学校		〃	美浜町立河和南部小学校
	〃	小坂井町立小坂井東小学校		〃	刈谷市立平成小学校
	利用指導	尾張旭市立旭小学校		〃	豊田市立若林西小学校
	〃	岩倉市立岩倉南小学校		〃	藤岡町立中山小学校
	〃	東海市立上野中学校		〃	設楽町立清嶺中学校
奨励賞	管理運営	東郷町立高嶺小学校		〃	蒲都市立蒲郡中学校
		犬山市立楽田小学校		利用指導	稲沢市立大里西小学校
		一宮市立丹陽小学校		〃	弥富町立弥富中学校
		稲沢市立大里西小学校		〃	岡崎市立新香山中学校
		豊明市立館小学校		〃	刈谷市立雁が音中学校
		春日井市立坂下小学校		管理運営	瀬戸市立祖東中学校
		美和町立美和東小学校		〃	下山村立阿蔵小学校
		弥富町立弥富中学校			
		常滑市立西浦南小学校			
		阿久比町立英比小学校			
		美浜町立河和小学校			
		岡崎市立大樹寺小学校			
		額田町立形埜小学校			
		岡崎市立常磐小学校			
		豊田市立若林西小学校			
		藤岡町立中山小学校			
		下山村立羽布小学校			
		設楽町立田口中学校			
		鳳来町立鳳来寺小学校			
		豊橋市立植田小学校			
		蒲都市立蒲郡中学校			

全国学校図書館協議会表彰

2000年度「学校図書館賞(第3部)」並びに「岩崎徹太賞」
 受賞校 愛知県瀬戸北高等学校
 受賞内容 ～魅力的でゆたかな図書館づくり、
 11年間の活動～

「学校図書館賞」は日本の学校図書館の発展に寄与するため、1970年に設定された。

- 第1部は、学校図書館(読書指導)に関する貢献
- 第2部は、学校図書館運動(読書運動)に関する貢献
- 第3部は、学校図書館の運営(利用指導)に関する貢献
- 岩崎徹太(岩崎書店創立者)賞は、学校図書館賞受賞者のうち1名を顕彰
- 小峰廣恵(小峰書店創立者)賞は、学校図書館賞受賞者のうち1名を顕彰

学校図書館研究会・役員・部長・理事・部員一覧

役職		年度	5	6	7
会 長			中野 基文 (稲沢大塚小)	鈴木 定夫 (豊川東部小)	高橋 邦肇 (春日井西高)
副 会 長			深川 恵造 (五条高) 平手 満昭 (扶桑中) 鈴木 定夫 (豊川東部小)	深川 恵造 (五条高) 中野 基文 (稲沢大塚小) 鈴木 郁夫 (豊松小)	石川 利彦 (半田小) 鈴木 郁夫 (豊松小) 稲葉 龍夫 (内海高)
事務局長			馬場 隆敏 (祖父江中)	小林 忠司 (豊川中部小)	野田 良彦 (春日井西高)
監 事			加藤 克美 (知多高) 安丸 銀次 (羽根小)	平手 満昭 (扶桑中) 稲葉 龍夫 (内海高)	小塚 俊信 (師勝北小) 鈴木 定夫 (豊川東部小)
事 務 部 長	尾 張		馬場 隆敏 (祖父江中)	馬場 隆敏 (祖父江中)	長谷場昌彦 (青山中)
	三 河		島崎 和美 (安城東部小) 小林 忠司 (豊川中部小)	石川 泰範 (美里中) 小林 忠司 (豊川中部小)	石川 泰範 (豊南中) 小林 忠司 (豊川金屋中)
	高 校		平野 正一 (五条高)	平野 正一 (五条高)	野田 良彦 (春日井西高)
会務三部長	研 究		石川 利彦 (半田小)	森田 照彦 (塩津小)	村本 邦夫 (熱田高)
	紀 要		近藤 銑司 (末野原中)	巽 俊雄 (美和高)	谷田 潔 (布袋小)
	読 感		瀧川 元雄 (岡崎東高)	谷田 潔 (布袋小)	高木 良和 (本宿小)
理 事 ・ 部 員	尾 張		石川 利彦 (半田小) 服部 桂 (大治小) 谷口 欣三 (千秋南小) 谷田 潔 (布袋小) 今井 義夫 (北里中) 小林 稔 (藤波中) 石川 健二 (富貴中) 岩田 充 (一宮萩原中) 渡辺 省三 (大徳小) 千田満沙志 (古知野南小) 加藤 誠 (犬山東部中) 河端 達雄 (北里小) 加藤 淳二 (西尾小)	谷田 潔 (布袋小) 森 康正 (大治南部中) 服部 桂 (大治小) 林 徹朗 (牧川小) 石川 利彦 (半田小) 岩田 充 (一宮萩原中) 山田 智子 (津島東小) 千田満沙志 (古知野南小) 加藤 保子 (篠田小) 鈴木 友子 (岩倉南小) 加藤 淳二 (西尾小) 長谷場昌彦 (半田青山中) 朝山 克子 (乙川小)	谷田 潔 (布袋小) 浅野 邦彦 (一宮大和南中) 石川 健二 (篠島小) 小塚 俊信 (師勝北小) 秋野 智 (草平小) 岩田 充 (一宮萩原中) 馬場 隆敏 (長岡小) 安藤 富峯 (新栄小) 近藤 末廣 (稲沢東小) 加藤 淳二 (西尾小) 千田満沙志 (布袋中) 加藤 保子 (篠田小)
			近藤 銑司 (末野原中) 廣瀬 三生 (御津南部小) 黒川しず代 (大村小) 河合 一充 (若戸小) 岩月 昭 (二本松小) 小林 忠司 (豊川中部小) 島崎 和美 (安城東部小) 峯野 紘 (一宮東部小) 鈴木 陽子 (東保見小) 近藤 禮子 (渥美東部中) 大橋 忠雄 (小高原小) 鈴木 伸一 (豊橋東部中) 鈴木 純子 (岡崎上地小)	森田 照彦 (塩津小) 廣瀬 三生 (御津南部小) 内田 浩 (米津小) 牧平 良衛 (豊橋本郷中) 高木 良和 (本宿小) 北川 宣明 (豊川西部中) 石川 泰範 (美里中) 本郷美保子 (一色西部小) 峯野 紘 (一宮東部小) 鈴木 伸一 (豊橋東部中) 近藤 禮子 (渥美東部中) 大橋 忠雄 (小高原小) 鈴木 純子 (岡崎上地小)	高木 良和 (本宿小) 岩瀬 完治 (宝飯萩小) 内田 浩 (米津小) 田中 至郎 (清田小) 牧平 良衛 (豊橋本郷中) 小林 忠司 (豊川金屋中) 石川 泰範 (豊南中) 本郷美保子 (一色西部小) 峯野 紘 (宝飯一宮東部小) 西尾 和俊 (高台寺小) 鈴木 伸一 (豊橋東部中) 大橋 忠雄 (小高原小) 鈴木 純子 (岡崎上地小) 柴田あい子 (豊川東部中)
			瀧川 元雄 (岡崎東高) 松岡 弘道 (瀬戸北高) 井上 英之 (新城東高) 大矢 訓之 (緑高) 田中 伸治 (瀬戸北高) 佐々 頌 (金城学院高) 熊谷 尚久 (新城東高) 森本 稔 (知多高) 安部 廣康 (岡崎東高) 伊藤 多重 (名東高)	巽 俊雄 (美和高) 高橋 邦肇 (春日井西高) 杉浦 常夫 (菊里高) 山科 知端 (豊丘高) 野田 良彦 (春日井西高) 林 久男 (山田高) 横江 静子 (美和高) 内田 未満 (名古屋商高) 佐々 頌 (金城学院高) 池田 正幸 (中京高) 金田 紘泰 (豊丘高) 佐伯 孝司 (豊田北高)	村本 邦夫 (熱田高) 大矢 正秀 (富田高) 神谷 光保 (豊橋工高) 木下 勝茂 (中京高) 市川 崇 (松平高) 小桜 謙 (熱田高) 稲熊 進 (西陵商高) 加藤 太一 (豊橋工高) 竹内 康彦 (内海高) 本康 武興 (中京高) 谷口 綾子 (名短付高) 黒田 洋子 (松平高) 酒井 嘉信 (尾北高)

役職 \ 年度		8	9	10
会 長		石川 利彦 (半田小)	高須 正義 (鶴城中) 石黒 石根 (牟呂小)	村本 邦夫 (熱田高)
副 会 長		高橋 邦肇 (春日井西高) 高須 正義 (平坂小) 秋野 智 (草平小)	村本 邦夫 (熱田高) 石川 利彦 (半田小)	西井 松生 (津島高) 石川 健二 (横須賀小) 清水 光寛 (東刈谷小)
事務局長		長谷場昌彦 (藤江小)	犬塚 恵 (西尾小)	小櫻 謙 (熱田高)
監 事		稲葉 龍夫 (内海高) 鈴木 定夫 (豊川東部小)	西井 松生 (津島高) 石川 健二 (篠島小)	石黒 石根 (牟呂小) 平山 国夫 (松山小)
事 務 部 長	尾 張	長谷場昌彦 (藤江小)	長谷場昌彦 (藤江小)	井本 直樹 (乙川中)
	三 河	犬塚 恵 (福地北部小) 小林 忠司 (豊川金屋中)	犬塚 恵 (西尾小) 小林 忠司 (豊川金屋小)	石川 泰範 (豊南中) 鈴木 伸一 (前芝中)
	高 校	野田 良彦 (春日井西高)	小櫻 謙 (熱田高)	平野 清 (津島高)
会務三部長		研 究 鈴木 敏修 (一宮大和南中) 紀 要 今泉 正弘 (野依小) 読 感 村本 邦夫 (熱田高)	清水 光寛 (平成小) 岡田 照代 (安城南高) 平山 国夫 (松山小)	市来 宏 (瀬戸北高) 臼井 守夫 (祖父江小) 加藤 和彦 (高豊中)
理 事 ・ 部 員	尾 張	鈴木 敏修 (一宮大和南中) 岩田 充 (一宮萩原中) 林 徹朗 (牧川小) 山田 博司 (栗栖小) 平山 国夫 (西山小) 勝 宏 (一宮大和東小) 平松 勝子 (浅野小) 渡辺 孝雄 (稲沢中) 花木規与子 (小正小) 岡田 義彦 (古知野南小) 穴沢 隆弘 (犬山南部中) 加藤 淳二 (西尾小) 加藤 絹子 (祖東中)	小野 洋雄 (棚尾小) 鈴木 義岳 (市江小) 臼井 守夫 (祖父江小) 山田 博司 (羽黒小) 鈴木 敏修 (一宮大和南中) 加藤 保子 (神守小) 服部 哲男 (西川端小) 青井 博 (稲沢西小) 勝 宏 (一宮大和東小) 穴沢 隆弘 (犬山南部中) 岡田 義彦 (黒田小) 加藤 淳二 (西尾小) 平松 勝子 (浅野小)	臼井 守夫 (祖父江小) 鈴木 義岳 (市江小) 山田 博司 (羽黒小) 平山 国夫 (松山小) 野田 重夫 (丹陽南小) 西尾 和俊 (飛島中) 加藤 保子 (神守小) 松永 宗康 (千代田中) 勝 宏 (一宮大和東小) 穴沢 隆弘 (犬山南部中) 加藤 淳二 (神領小) 磯部 弘子 (河和南部小) 加藤 絹子 (祖東中)
	三 河	今泉 正弘 (野依小) 斎藤 正 (鷺塚小) 小池 章一 (道慈小) 田中 至郎 (清田小) 清水 光寛 (平成小) 小林 忠司 (豊川金屋中) 犬塚 恵 (福地北部小) 峯野 紘 (小坂井東小) 石川 泰範 (豊南中) 鈴木 伸一 (豊橋東部中) 大橋 忠雄 (小高原小) 鈴木 純子 (岡崎上地小) 柴田あい子 (豊川東部中)	清水 光寛 (平成小) 塚本 隆雄 (吉浜小) 柴田 修一 (河合中) 内藤 弘司 (小坂井東小) 小林 忠司 (金屋小) 近藤美由紀 (一色南部小) 尾崎 清恵 (形原中) 石川 泰範 (豊南中) 鈴木 伸一 (豊橋東部中) 大橋 忠雄 (刈谷朝日小) 鈴木 純子 (緑丘小) 柴田あい子 (豊川東部中)	加藤 和彦 (高豊中) 塚本 隆雄 (吉浜小) 柴田 修一 (河合中) 高松勝治郎 (伊保小) 岡田 正三 (赤坂小) 神尾やち子 (坂崎小) 鈴木 伸一 (前芝中) 近藤美由紀 (一色南部小) 中川 鈴江 (田原中) 野々山周次郎 (岡崎上地小) 尾崎 清恵 (形原中) 小林 達也 (中畑小) 柴田あい子 (豊川東部中)
	高 校	村本 邦夫 (熱田高) 市川 崇 (松平高) 古橋 邦男 (豊川工高) 木下 勝茂 (中京高) 小林 昌勝 (一宮南高) 鈴木美佐子 (松平高) 飯田 晴巳 (菊里高) 高木 譲 (豊川工高) 鳥居 宏之 (内海高) 本康 武興 (中京高) 谷口 綾子 (名短付高) 小桜 謙 (熱田高) 河井 良又 (一宮南高)	岡田 照代 (安城南高) 市来 宏 (瀬戸北高) 森山 有 (内海高) 井上 英之 (新城高) 家崎 宏 (中京大中京高) 田中 伸治 (瀬戸北高) 加賀谷達夫 (市立北高) 小野田栄孝 (安城南高) 鳥居 宏之 (内海高) 東元勢津子 (新城高) 平野 清 (津島高) 本康 武興 (中京大中京高) 池田 明美 (金城学院高)	市来 宏 (瀬戸北高) 川口 侃 (成章高) 千田 信也 (新川高) 後口伊志樹 (安城南高) 森山 有 (内海高) 浅井 敬 (金城学院高) 大羽 昌利 (成章高) 田中 伸治 (瀬戸北高) 矢野 宏彦 (新川高) 小野田栄孝 (安城南高) 長谷川真弓 (若宮商高) 米津 明彦 (内海高) 池田 明美 (金城学院高) 渡辺 正光 (愛知高)

役職 \ 年度		11	12	13
会 長		石川 健二 (横須賀小)	加藤 和彦 (向山小)	豊永 利英 (春日井西高)
副 会 長		加藤 和彦 (向山小) 市米 宏 (瀬戸北高) 平山 国夫 (松山小)	豊永 利英 (春日井西高) 山田 博司 (大口中) 塚本 隆雄 (吉浜小)	山田 博司 (大口中) 塚本 隆雄 (吉浜小) 杉村 良昌 (瀬戸北高)
事務局長		井本 直樹 (乙川中)	鈴木 伸一 (前芝中)	田中 伸治 (瀬戸北高)
監 事		清水 光寛 (東刈谷小) 豊永 利英 (春日井西高)	天野 近 (豊橋東高) 石川 健二 (横須賀小)	竹内 正次 (河和小) 加藤 和彦 (向山小)
事 務 部 長	尾 張	井本 直樹 (乙川中)	穴沢 隆弘 (岩倉南部中)	穴沢 隆弘 (岩倉南部中)
	三 河	石川 泰範 (豊南中) 鈴木 伸一 (前芝中)	石川 泰範 (豊南中) 鈴木 伸一 (前芝中)	湯浅つき子 (益富中) 河合 伸治 (豊橋南稜中)
	高 校	田中 伸治 (瀬戸北高)	田中 伸治 (瀬戸北高)	田中 伸治 (瀬戸北高)
会務三部長	研 究	鈴木 義岳 (市江小)	岡田 正三 (赤坂小)	長谷川 勝 (半田東高)
	紀 要	塚本 隆雄 (吉浜小)	川口 勝俊 (津島東高)	堀田 正隆 (丸甲小)
	読 感	森山 有 (内海高)	竹内 正次 (乙川東小)	河合 好文 (竜南中)
理 事 ・ 部 員	尾 張	鈴木 義岳 (市江小) 西尾 和俊 (飛島中) 堀田 正隆 (尾西第三中) 山田 博司 (羽黒小) 野田 重夫 (丹陽南小) 加藤 保子 (神守小) 刑部 健 (片原一色小) 馬場 隆敏 (法立小) 加藤 悦子 (神島田小) 穴沢 隆弘 (岩倉南部中) 千田 元子 (扶桑北中) 山田 正樹 (一宮大和東小) 加藤 淳二 (神領小)	竹内 正次 (乙川東小) 安藤 秀夫 (師勝中) 鈴木 義岳 (市江小) 川崎 東剛 (北方小) 堀田 正隆 (尾西第三中) 西尾 和俊 (北河田小) 加藤 保子 (神守小) 山田 正樹 (一宮大和東小) 刑部 健 (大塚小) 富田澄美子 (尾西朝日西小) 安藤 富峯 (師勝東小) 加藤 淳二 (神領小) 井本 直樹 (布土小)	堀田 正隆 (丸甲小) 安藤 秀夫 (師勝中) 森 治道 (山崎小) 川崎 東剛 (北方小) 大泉 完 (海部宝小) 刑部 健 (大塚小) 富田澄美子 (尾西朝日西小) 倉兼 清子 (赤見小) 加藤 淳二 (神領小) 佐藤 益江 (白木小) 井本 直樹 (布土小) 石田 公雄 (神守小) 伊藤 幸代 (佐屋中)
	三 河	塚本 隆雄 (吉浜小) 岡田 正三 (赤坂小) 丸山 俊治 (開成小) 高松勝治郎 (伊保小) 永田 東一 (高松小) 鈴木 伸一 (前芝中) 三岡 英隆 (保見中) 河合 伸治 (豊橋南稜中) 野々山周次郎 (岡崎上地小) 中川 鈴江 (田原中) 大橋 忠雄 (刈谷朝日小) 尾崎 清恵 (三谷東小) 小林 達也 (中畑小)	岡田 正三 (赤坂小) 高松勝治郎 (伊保小) 永田 東一 (高松小) 水越 光久 (三谷中) 河合 好文 (竜南中) 河合 伸治 (豊橋南稜中) 三岡 英隆 (保見中) 久瀬 克己 (渥美東部中) 尾崎 敦子 (幡豆荻原小) 石黒 智子 (金屋小) 野々山周次郎 (岡崎上地小) 安形ともみ (新城小) 大橋 忠雄 (刈谷朝日小)	河合 好文 (竜南中) 福岡 武宏 (大畑小) 伊藤 嘉彦 (宝飯萩小) 近藤 輝和 (富士松東小) 水越 光久 (三谷中) 湯浅つき子 (益富中) 河合 伸治 (豊橋南稜中) 吉牟田幸子 (平成小) 久瀬 克己 (渥美東部中) 渥美久美子 (矢作南小) 小林 達也 (鶴城中) 柴田あい子 (豊川南部中) 佐々木ひろみ (形原中)
	高 校	森山 有 (内海高) 小野田章二 (時習館高) 濱家 正兵 (一宮西高) 藤井 正男 (若宮商高) 小田 芳伯 (吉良高) 吉田 悠記 (愛知高) 中川 稔 (時習館高) 澤木 美雪 (一宮西高) 長岡 昭則 (緑高) 細江 彰子 (春日井西高) 鳥居 宏之 (内海高) 藤原 肇 (吉良高) 渡辺 正光 (愛知高)	川口 勝俊 (津島東高) 杉村 良昌 (瀬戸北高) 小田 芳伯 (吉良高) 彦坂 尚宏 (富田高) 長谷川 勝 (半田東高) 渡辺 彪 (愛工大名電高) 松島 秀憲 (吉良高) 浦野 興治 (豊橋東高) 藤田 洋子 (津島東高) 竹内 久能 (富田高) 加藤 雅敏 (半田東高) 細江 彰子 (春日井西高) 生田 銀朗 (愛工大名電高)	長谷川 勝 (半田東高) 内藤 克弘 (岡崎商高) 大谷 勉 (春日井南高) 川口 勝俊 (新川高) 豊田 国昭 (蒲郡高) 彦坂 尚宏 (富田高) 石川 紘介 (愛知淑徳高) 加藤 雅敏 (半田東高) 玉田 明 (春日井南高) 清水 隆則 (岡崎商高) 石井 悍 (蒲郡高) 瀬尾 雅子 (新川高) 藤永 正喜 (山田高) 近藤 直門 (愛知淑徳高)

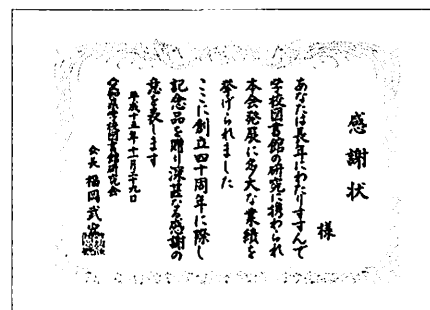
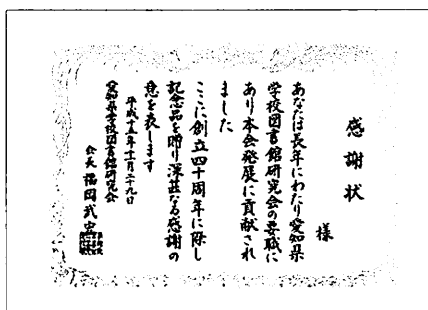
役職 \ 年度		14	15
会 長		山田 博司 (大口中)	福岡 武宏 (猿投台中)
副 会 長		福岡 武宏 (猿投台中) 杉村 良昌 (瀬戸北高) 川崎 東剛 (北方小)	清水 國光 (瀬戸高) 川崎 東剛 (北方小) 伊藤 嘉彦 (宝飯萩小)
事務局長		穴沢 隆弘 (岩倉南部中)	坪井富士男 (東保見小)
監 事		加藤 和彦 (向山小) 清水 國光 (瀬戸高)	阿部 重紀 (春日井西高) 小林 稔 (知多旭南中)
事 務 部 長	尾 張	穴沢 隆弘 (岩倉南部中)	伊神佐知子 (丹陽小)
	三 河	岡田 守 (愛教大岡崎小) 河合 伸治 (豊橋南稜中)	野間 寛 (愛教大岡崎中) 河合 伸治 (高豊中)
	高 校	田中 伸治 (瀬戸北高)	田中 伸治 (瀬戸北高)
会務三部長	研 究	雨宮 哲夫 (師勝中)	中根 洋 (羽根小)
	紀 要	伊藤 嘉彦 (宝飯萩小)	遠藤 克也 (五条高)
	読 感	長谷川 勝 (半田東高)	馬場 隆敏 (千代田小)
理 事 ・ 部 員	尾 張	雨宮 哲夫 (師勝中) 千田満沙志 (岩倉南部中) 堀田 正隆 (丸甲小) 大泉 完 (海部宝小) 小林 稔 (知多旭南中) 広瀬 守 (稲沢清水小) 富田澄美子 (尾西朝日西小) 山中 仁 (津島東小) 佐藤 益江 (白木小) 加藤 淳二 (岩成台小) 伊藤 幸代 (佐屋中) 堀木 研一 (共長小) 功刀 精子 (加木屋小)	馬場 隆敏 (千代田小) 須賀 陽子 (犬山城東小) 加藤 保子 (篠田小) 栗原 道人 (陶原小) 大脇 希文 (上条小) 伊藤 幸代 (佐屋中) 山中 仁 (津島東小) 市川 督哲 (平和中) 刑部 健 (大塚小) 青木 弘 (水野小) 穴沢 隆弘 (岩倉南部中) 鈴木 洋子 (大口中) 加藤 淳二 (岩成台小)
	三 河	伊藤 嘉彦 (宝飯萩小) 中根 洋 (羽根小) 宮本美枝子 (棚尾小) 水越 光久 (三谷中) 江口 進 (刈谷衣浦小) 川島 和代 (八ツ田小) 河合 伸治 (豊橋南稜中) 竹本 正子 (豊南中) 久瀬 克己 (渥美東部中) 渥美久美子 (矢作南小) 河根 恵子 (竹島小) 小林 達也 (鶴城中) 石黒 智子 (金屋小)	中根 洋 (羽根小) 杉浦 勝美 (開成小) 藤原 辰明 (安城東部小) 山本 章司 (蒲郡南部小) 平野 明夫 (吉浜小) 河合 伸治 (高豊中) 竹本 正子 (豊南中) 中村 亮一 (豊橋東部中) 榊原 直美 (祥南小) 渥美久美子 (矢作南小) 河根 恵子 (竹島小) 小林 達也 (鶴城中) 石黒 智子 (金屋小)
	高 校	長谷川 勝 (半田東高) 清水 國光 (瀬戸高) 寺田 志郎 (一宮北高) 伊藤 正晴 (衣台高) 水野 昭彦 (豊橋商高) 田中多喜彦 (名東高) 井上 功典 (愛知女子高) 高橋 秀雄 (瀬戸高) 浅井 信洋 (一宮北高) 杉浦 基弘 (衣台高) 長野 行伸 (豊橋商高) 古田 善春 (工業高) 平林 久和 (愛知女子高) 加藤 雅敏 (半田東高)	遠藤 克也 (五条高) 阿部 重紀 (春日井西高) 山田 博之 (衣台高) 白井 孝一 (小坂井高) 横山 和夫 (桜台高) 山田 和夫 (市邨高) 伊藤 庄造 (半田農高) 高橋 秀雄 (瀬戸高) 杉浦 基弘 (衣台高) 中村 勝広 (五条高) 矢野敬一郎 (小坂井高) 伊藤 多重 (桜台高) 高橋 芳彦 (市邨高) 都築 隆史 (半田農高)

学校図書館研究会貢献者

	尾 張	三 河	高 校
氏 名	文彦二司昭敏彦樹弘子 基利健博満隆昌直隆文 野川川田手場場本沢川 中石石山平馬長井穴古	夫義根彦寛雄彦司恵一 定正石和光隆照忠 伸 木須黒藤水本田林塚木 鈴高石加清塚森小犬鈴	肇夫英宏昌勝彦謙治敏 邦邦利 良 良 伸雅 橋本永来村川田櫻中藤 高村豊市杉長谷野小田加

学校図書館研究会功労者

	尾 張	三 河	高 校
氏 名	子代美子完子一子美子子之哲子二己峯夫 洋真幸幸千穂精研万秀克勝利敏督絹淳正富国 木川藤内村泉刀木木川山松関利川藤藤島藤山 鈴谷長伊山楢大功堀鈴吉朝平尾毛市加加中安平	夫和洋三郎郎也文子範弘子子子治子子己み恵 郁良 正勝治次郎達好つき泰正知育智伸あい智克と清 木木根田松山林合浅川藤子野川合田黒瀬形崎 鈴高中岡高野小々河湯石加兼牧越河柴石久安尾	喜之則司晴興夫敦啓子子子子子恵子子 正浩昭隆敏武和 隆朝訓直幸知三多道さち 島原岡田井康藤宮田野村田方田野田藤本 中荻長島白本伊二石平入浦東吉吉池加山



会 則 の 変 遷

1 現在の会則

愛知県学校図書館研究会会則

一部改正 昭和58年5月25日
一部改正 平成5年5月25日
一部改正 平成10年6月5日
一部改正 平成14年5月31日

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この会は愛知県学校図書館研究会と称する。

(事務局)

第2条 この会の事務局は原則として会長在任校に置く。

(目 的)

第3条 この会は学校図書館の健全な発達を図り、もって学校教育を充実することを目的とする。

第2章 事 業

(事 業)

第4条 この会の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学校図書館振興に関する各種の企画及び協力
- (2) 学校図書館の管理と運営に関する研究
- (3) 資料の収集、整理に関する研究
- (4) 学校図書館並びに資料の利用に関する研究
- (5) 研究大会、研究会、実務講習会、研修会等の開催
- (6) 研究物、機関誌等の刊行
- (7) その他、この会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

(会 員)

第5条 この会の会員は、公立の小・中学校(名古屋市を除く)及び公立・私立の高等学校並びに特殊学校をもって会員とする。

第4章 役職員および組織

(役 員)

第6条 この会に役員及び理事・評議員をおく。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副 会 長 若干名
- (3) 監 事 2名
- (4) 部長(研究・紀要・読感) 3名
- (5) 事務局長 1名
- (6) 理 事 若干名
- (7) 評 議 員 若干名

(役員を選出)

第7条 この会の役員及び理事・評議員の選出は次の方法による。

- (1) 評議員は、小・中学校において各都市ごとに、高校においてはブロックごとに選出する。
- (2) 会長・副会長は、所属会員中から評議員会において選出する。
- (3) 理事・監事は、評議員の互選によって選出する。
- (4) 事務局長は、会長が委嘱する。

(会 長)

第8条 会長はこの会を代表し、会務を総理する。

(副会長)

第9条 副会長は会長を補佐し、会長事故ある場合に会務を代行する。

(監 事)

第10条 監事は会計を監査する。

(役員任期)

第11条 この会の役員の任期は1か年とする。但し、再任を妨げない。

2 役員は任期満了後も、後任者の就任まではその職務を行う。

3 補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(事務局職員)

第12条 事務局長及び会長が委嘱した事務職員は、この会の実務並びに会計を処理する。

(顧 問)

第13条 この会に顧問をおくことができる。

2 顧問は、本会に対する功労顕著なる者、及び学識経験者のある者を、理事会の承認を得て会長がこれを委嘱する。

(部 会)

第14条 この会の目的達成のため、必要に応じて、学校種別その他の部会をおくことができる。

2 部会および支部の設置は、総会の承認を必要とする。

3 部会および支部の運営等については、そのつど会長に報告する。

第5章 会 議

(会 議)

第15条 この会に次の会議を設ける。

- (1) 総 会
- (2) 評 議 会
- (3) 理 事 会
- (4) 役 員 会
- (5) 研究部会

(総 会)

第16条 総会は全会員の三分の二以上の出席をもって、毎年1回、開催する。但し、評議員会をもってこれに代えることができる。

2 総会のなすべき事項は、次の通りとする。

- (1) 会務の報告
- (2) 会則の変更
- (3) 事業計画並びに予算の審議及び決算の承認
- (4) 役員の選出

(評議員会)

第17条 評議員会は、評議員の三分の二以上の出席をもって、毎年1回以上開く。

(理事会)

第18条 理事会は、必要あるごとに、理事の三分の二以上の出席をもって開く。

2 理事会においてなすべき事項は、次の通りとする。

- (1) 評議員の決議によって委任された事項
- (2) 会務執行上の諸事項
- (3) 緊急を要する事項

(役員会)

第19条 役員会は、必要あるごとに開き、会務運営上の諸事業を協議する。

第6章 会 計

(経 費)

第20条 この会の経費は、会費、助成金、寄付金、その他をもってこれにあてる。

第21条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第7章 補 足

(会則の変更)

第22条 会則の変更は、総会において出席者の三分の二以上の賛成がなければならない。

(細則)

第23条 この会の運営に必要な細則は理事会で別に定める。

(効力の発生)

第24条 この会則は、総会において承認された日から、その効力を発生する。

細則

1 評議員の数は、ほぼ次の通りとする。

高 等 学 校			小・中学校	
地 区	校長	教頭	校長	教頭・教諭
名古屋	1	1	各都市1	各都市 1
尾張	2	2		
東三河	1	1		
西三河	1	1		
名古屋市立	1	1		
私 立	1	1		
小 計	7	7	45	45
合 計	104名			

2 理事の数は、ほぼ次の通りとする。

高 等 学 校			小・中学校	
地 区	校長	教頭	校長	教頭・教諭
県立	4	1	尾張6 三河5	尾張 4 三河 5
市立	1	1		
私立	1	1		
小 計	6	3	11	9
合 計	29名			

3 監事は、会長以外のブロックから各1名を選出する。

4 会費は、下記の通り徴収する。

高等学校	特殊学校	小・中学校	
2,900円	1,210円	7学級以上	6学級以下
		1,490円	1,210円

5 本会は、全国学校図書館協議会に対し、下記の基準により、会費を一括納入する。

基準 1校につき50円

2 会則変遷の概要

昭和38年度、愛知県学校図書館教育研究会が、愛知図書館協会から分離独立して発足した。伴って会則が作成された。(起草者、愛知図書館司書狩納逸朗氏)

昭和39年度、大改正が行われ、以後本会会則の基本となった。細則が作成され、評議員・理事の定数や学校種別の会費が明示された。

昭和44年度、事務局を設置し、会長が事務局長を委嘱することになった。(第6・7・12条) 尾張・三河・高校の三部交代制が発足した。(内規)

昭和46年度、会の名称を愛知県学校図書館研究会とした。(第1条)

昭和58年度、特殊学校が会員であることを明示した。(第5条) また、必要に応じて、地区・郡・市に支部を置くことができるようになった。(第14条)

平成5年度、会費の値上げを行った。(細則の4、5)

平成10年度、部長(研究・紀要・読感)の3名を役職の中に明確に位置づけた。(第6条)

平成14年5月31日(金)に行われた愛知県学校図書館研究会総会において、愛知図書館協会からの分離独立の意向が承認され、6月10日に退会届を提出することによって、正式に愛知図書館協会から分離独立した。

会費や関係団体への納入金は細則に定められているが、下記の通りになっている。

(1) 愛知県学校図書館研究会会費(細則4)

年度	高等学校	特殊学校	小・中学校	
			7学級以上	6学級以下
S39	600円		400円	300円
47	900円		600円	450円
50	1,500円	700円	900円	700円
57	2,000円	820円	1,030円	820円
H2	2,600円	1,060円	1,340円	1,060円
5~	2,900円	1,210円	1,490円	1,210円

平成5年度以降変更はない。(高等学校2,900円、特殊学校1,210円、7学級以上の小・中学校1,490円、6学級以下の小・中学校1,210円)

(2) 愛知図書館協会への納入金(細則4は平成14年度に削除)

年度	高等学校	特殊学校	小・中学校	
			7学級以上	6学級以下
S39	200円		120円	100円
47	300円		180円	150円
50	450円	230円	270円	230円
57	700円	350円	400円	350円
H5~13	1000円	500円	550円	500円

上記の理由から、総則5「本会は、愛知図書館協会に団体加入し、下記の基準により、会費を納入する。」を平成14年度に削除した。

(3) 全国学校図書館協議会への納入金(細則4→細則5に変更)

昭和61年度より、1校につき50円。現在まで変更なし。

愛知県学校図書館研究大会のあゆみ

第1回	1963	(昭和38)	「教育課程の展開と学校図書館」(豊橋・青陵中、豊田・高岡中、半田・亀崎小、愛知商)
第2回	1964	(昭和39)	「教育課程の展開と学校図書館」(渥美・田原中、岡崎・愛宕小、海部・大治小、明和高) 記念講演「今日における読書指導の課題」愛知学芸大学教授 山本善三先生
第3回	1965	(昭和40)	「人間形成に役立つ学校図書館」(豊田市立豊南中)
		11・13	指導講話「学校図書館の当面する諸問題」 文部省初等教育課教科調査官 井沢 純氏
第4回	1966	(昭和41)	「人間形成をめざす学校図書館」(小牧市立小牧中)
		11・18	指導講話「読書による人間形成」 玉川大学文学部 室伏 武先生
第5回	1967	(昭和42)	「学習活動の中で生きてはたらく学校図書館」(蒲郡市立蒲郡南部小)
		11・25	
	1968	(昭和43)	※第16回全国学校図書館研究大会名古屋大会(名古屋市公会堂 他4会場)
		10・31～11・2	
第6回	1969	(昭和44)	「学習活動に結びついた学校図書館の運営と利用」(中島郡祖父江町立領内小)
		10・29	指導講話「学校図書館の将来」中部日本新聞社編集局 岩津良治氏
第7回	1970	(昭和45)	「学習に結びついた学校図書館の運営と利用」(安城市立安城南中)
		11・10	
第8回	1971	(昭和46)	「教育の現代化にこたえうる学校図書館のあり方」(常滑市市民体育館)
		10・27	
第9回	1972	(昭和47)	「情報化社会の人間形成をめざす学校図書館のあり方」(江南市立古知野南小)
		10・25	
第10回	1973	(昭和48)	「情報化社会の中で生涯教育の理念にたつ主体的な学習活動を支える学校図書館のあり方 を問い直そう」(豊田市立挙母小)
		8・22～23	※第16回東海地区学校図書館研究大会
第11回	1974	(昭和49)	「学校教育の現代的課題にこたえうる学校図書館のあり方」(県立刈谷東高)
		10・30	
第12回	1975	(昭和50)	「主体的・創造的な人間形成をめざす学校図書館のあり方」(一宮市立神山小)
		10・20	記念講演「ことばの持つ意味」中部日本放送報道部次長 谷地森昇氏
第13回	1976	(昭和51)	「みずから学ぶ力を養い、豊かな心を育てる学校図書館のあり方」(豊川市立西部中)
		10・26	記念講演「読書と人生」 作家 椋 鳩十氏
第14回	1977	(昭和52)	「ゆとりある学校生活に生かされる学校図書館のあり方」
		11・8	(名古屋市中区役所ホール・名古屋市立中央高)
			記念講演「子どもが耳をすますとき」 児童文学者 岸 武雄氏
第15回	1978	(昭和53)	「ゆとりある学校生活に生かされる学校図書館のあり方」(東海市立大田小)
		10・19	記念講演「子ども・本・大人」 愛知県立大学助教授 かつおきんや先生
第16回	1979	(昭和54)	「ゆとりと充実のある学校生活を志向する学校図書館のあり方」(刈谷市立小高原小)
		10・16	記念講演「本・さしえ・子ども」 画家 赤羽末吉氏
第17回	1980	(昭和55)	「心ゆたかな教育に生かされる学校図書館のありかた」(金城学院高)
		10・24	記念講演「朗読と話し方」 名古屋テレビ参事 原 太郎氏
第18回	1981	(昭和56)	「人間性豊かな児童、生徒の育成と学校図書館」(津島市立南小)
		10・22	
第19回	1982	(昭和57)	「みずから学ぶ力を養い、豊かな人間性を育てる学校図書館のあり方」(豊橋市立二川小)
		10・26	記念講演「学校図書館と今日の出版状況」 ポプラ社専務取締役 田中治男氏
第20回	1983	(昭和58)	「児童・生徒の豊かな人間性の育成に資する学校図書館活動を考えよう」
		8・19～20	(尾張旭市立旭小、旭中、県立旭野高、尾張旭市文化会館)
			※第21回東海地区学校図書館研究大会
第21回	1984	(昭和59)	「みずから学ぶ意欲と豊かな人間性を育てる図書館をつくろう」(瀬戸市立南山中)
		10・15	
第22回	1985	(昭和60)	「生涯教育の基礎と豊かな人間性を育てる学校図書館のあり方」(岡崎市立連尺小)

		10・22	記念講演「学ぶことと本を読むこと」 児童文学者 鈴木喜代春氏
第23回	1986	(昭和61)	「教育の改革にこたえうる学校図書館を考えよう」(金城学院高)
		10・31	記念講演「読む文化」お茶の水女子大学教授 外山滋比古先生
第24回	1987	(昭和62)	「みずから学ぶ力と豊かな人間性を育成する学校図書館のあり方」(犬山市立城東中)
		11・6	記念講演「サルからヒトへ」 日本モンキーセンター動物園長 小寺重孝氏
第25回	1988	(昭和63)	「みずから学ぶ力と豊かな人間性を育てる学校図書館のあり方」(蒲郡市立三谷小)
		10・28	記念講演「それは図書館から始まったー私の仕事30年ー」 児童文学者 今江祥智氏
第26回	1989	(平成元)	「教育の改革にこたえうる学校図書館の充実を考えよう」(愛知県中小企業センター)
		10・27	記念講演「子どもと本とおとなー子どもの本の専門家から見るとー」 (株)メルヘンハウス代表取締役 三輪 哲氏
第27回	1990	(平成2)	「みずから学ぶ力と豊かな人間性を育成する学校図書館のあり方」(平和町立六輪小)
		10・22	記念講演「『見える』こととその人間像ー民話の本から何が伝えられるかー」 児童文学作家 大川悦生氏
第28回	1991	(平成3)	「自ら学ぶ意欲と豊かな心を育てる学校図書館」(安城市立新田小)
		10・25	記念講演「読書という名の旅」 児童文学作家 舟橋克彦氏
第29回	1992	(平成4)	「みずから学ぶ力と国際感覚を育てる学校図書館」(金城学院高)
		10・30	記念講演「本は心の旅」 岐阜教育大学講師 窪田守弘先生
第30回	1993	(平成5)	「自ら学ぶ意欲と豊かな心を育てる学校図書館のあり方を求めて」 (半田福祉文化会館、半田勤労福祉会館、住吉福祉文化会館)
		8・24～25	記念講演「南吉と賢治」 児童文学作家 浜野卓也氏 ※第26回東海地区学校図書館研究大会
第31回	1994	(平成6)	「自ら学ぶ意欲と豊かな心を育くむ学校図書館」(豊川市文化会館、豊川市勤労福祉会館)
		11・11	記念講演「お話の宅急便」 児童文学作家 角野栄子氏
第32回	1995	(平成7)	「自ら学ぶ意欲を育て情報化社会に対応する学校図書館」(愛知県中小企業センター)
		10・27	記念講演「近世庶民文化 名古屋文化と徳川宗春」 南山大学文学部教授 安田文吉先生
第33回	1996	(平成8)	「豊かな心と社会の変化に主体的に対応できる力を育む学校図書館」 (一宮勤労福祉会館、一宮市温水プール)
		10・25	記念講演「宮沢賢治と新美南吉」 大阪教育大学教授 大藤幹夫先生
第34回	1997	(平成9)	「心豊かで、自ら調べる子どもを育てる学校図書館」 (西尾市文化会館、西尾市青年の家、西尾市働く婦人の家、西尾小学校)
		10・24	記念講演「詩が生まれるとき」 詩人 新川和江氏
第35回	1998	(平成10)	「豊かな人間性を育み、情報化社会にこたえる学校図書館」(愛知県中小企業センター)
		10・30	記念講演「子どもの生活と童話」 児童文学者 寺村輝夫氏
第36回	1999	(平成11)	「豊かな感性をはぐくみ、生きる力を培う学校図書館」 (佐屋町中央公民館、佐屋町立図書館、佐屋中学校、佐屋小学校)
		10・26	記念講演「子どもと本のおいしい関係」 児童文学作家・翻訳家 山下明生氏
第37回	2000	(平成12)	「新しい教育の中核を担う学校図書館」(ライフポートとよはし)
		10・27	記念講演「新世紀の教育を拓く学校図書館ーその在り方と課題を考えるー」 全国学校図書館協議会理事長 笠原良郎氏
第38回	2001	(平成13)	「21世紀を開く学校図書館」
		10・30	記念講演「考えるヒントー講演と朗読ー」 作家 阿刀田高氏・日本点字図書館朗読員 阿刀田慶子氏
第39回	2002	(平成14)	「新しい時代の新しい学校図書館」 (師勝町民総合体育館、師勝町図書館、師勝町役場、師勝中学校)
		10・29	記念講演「『北の国から』の制作に当たって」 (株)フジテレビジョン編成制作局エグゼクティブディレクター 杉田成道氏
第40回	2003	(平成15)	「新しい時代を拓く学校図書館の創造」 (豊田市民文化会館、愛知工業大学10号館)
		8・7～8	記念講演「本と詩と音楽と」 詩人 谷川俊太郎氏、音楽家 谷川賢作氏、児童文学者 水内喜久雄氏 ※第31回東海地区図書館研究大会

東海地区学校図書館研究大会のあゆみ

回	開催地	開催年月日	大会の概要
1	愛知県 名古屋市	昭31 6.9～10	趣旨 東海三県の全研究組織を結集し、飛躍的な振興充実をはかる。 講演「学校図書館の今後の問題」東京学芸大学長 木下一雄氏
2	三重県 四日市市	昭32 6.8～9	前回の趣旨を受け、学校図書館の教育的機能を高める道を求める。 講演「子供の糧としての読書」評論家 坂西志保氏
3	岐阜県 岐阜市	昭33 6.7～8	「教科学習と学校図書館」「目録活用」など新しいテーマが顔を出す。 講演「読書人一路向上」国会図書館長 金森徳治郎氏
4	愛知県 豊橋市	昭34 6.6～7	静岡県が新しく参加。元文部大臣 天野貞祐氏「ものの考え方について」 深川恒喜氏の「教育課程と学校図書館」の講演
5	静岡県 岡崎市	昭35 6.4～5	全国SLAの支援のもとに4講習会がもたれた。 指導講話 鈴木英二氏。作家 中山義秀氏の「事実と創作」
6	三松 阪重市	昭36 6.3～4	「教育課程の実施に役立つ学校図書館」を基底に研究討議された。 指導講話 深川恒喜氏。講演 臼井吉見氏の「人間と文学」
7	岐阜県 大垣市	昭37 6.9～10	「教育課程の展開に奉仕する学校図書館」に重点をおく。 指導講話 松尾弥太郎氏の「資料センター論をめぐって」講演 吉川幸次郎氏
8	愛知県 一宮市	昭38 6.1～2	「資料センターとしての学校図書館」が中心題目。 指導講話 文部省の井沢純氏「今後のS・Lのあり方」講演「無月の書」奥野信太郎氏
9	静岡県 沼津市	昭39 6.6～7	「読書生活の実態把握と図書館教育」が研究の中心テーマ。 指導講話 松尾弥太郎氏。講演 明治大学教授 岡正雄氏の「未開人の現代化」
10	三津 重市	昭40 6.5～6	学校図書館の真に活きるべき方途を見きわめるのが趣旨。 指導講話 佐藤友彦氏。講演「人生と読書」お茶の水女子大学教授 周郷博氏
11	岐阜県 高山市	昭41 7.1～2	真に人間形成を目ざす学校図書館のあり方について討議する。 指導講話 増村王子氏。講演「学校図書館当面の問題」深川恒喜氏
12	静岡県 熱海市	昭42 8.10～11	転機に立つ学校図書館、読書の教育的意義を再確認。 指導講話 鈴木英二氏。講演「仏像の心」立命館大学教授 梅原猛氏
13	愛知県 名古屋市	昭43 10.31～11.2	全国大会をかねる。主題「近代化する学校教育の中で期待されるS・Lのあり方」 講演「現代社会における芸術」前京大教授 桑原武夫氏
14	三重県 伊賀上野市	昭44 8.4～5	教育的機能を発揮するS・Lのあり方を追究する。 指導講話 鈴木英二氏。講演「歴史と図書」前立命館大教授 林屋辰三郎氏
15	岐阜県 岐阜市	昭46 8.10～11	テーマ「近代化にこたえる図書館の今日的課題の究明」 指導講話 佐野友彦氏。講演「教育問題の現状とその将来」新日鉄 藤井丙午氏
16	愛知県 豊田市	昭48 8.22～23	生涯学習の理念に立つ主体的な学習活動を支えるS・Lのあり方がテーマ。 指導講話 芦谷清氏。講演 鈴木光彦氏「情報化社会と教育」
17	静岡県 湖西市	昭50 8.18～19	テーマ「生涯教育の基盤となるS・L活動のあり方の究明」 指導講話 佐野友彦氏。講演「風土と文学」作家 小川国夫氏
18	愛知県 名古屋市	昭52 8.9～10	主題「学校教育に生きて働く学校図書館のあり方を問い直そう。」 講演「青少年の心と体」名大教授 内山道明氏
19	三津 重市	昭54 8.9～10	「ゆたかな学校生活に果たす学校図書館の役割を実践を通して考えよう。」 指導講話 佐野友彦氏
20	岐阜県 土岐市	昭56 10.23～24	「ひとりひとりの児童生徒に自ら学ぶ力をつけさせ豊かな人間性を養うための学校図書館活動を究明しよう。」情勢報告 岩田斉氏
21	愛知県 尾張旭市	昭58 8.19～20	主題「児童生徒の豊かな人間性の育成に資する学校図書館活動を考えよう。」 東海地区優良学校図書館スライド紹介。情勢報告 黒沢浩氏
22	静岡県 岡崎市	昭60 8.9～10	主題「豊かな人間性を育てる学校図書館活動はどうあったらよいか」 講演「科学万能時代に生きる子供たち」那須田稔氏
23	愛知県 名古屋市	昭62 8.20～21	主題「自ら学ぶ態度を養い、豊かな人間性を育てる学校図書館の活動はどうあるべきか」講演「児童文学作品における子ども像」赤座憲久氏

回	開催地	開催年月日	大会の概要
24	三 四 日 市	重 市 平元 8.10～11	主題「自ら考え学ぶ力を育てる学校図書館－児童生徒をいきいきと活動させる学校図書館のあり方を求めて－」講演「書物と絵画」陰星鉄郎氏
25	岐 大 垣 市	阜 市 平3 8.8～9	主題「21世紀へ向けての学校図書館－自己教育力の育成と情報化社会への対応」講演「情報科時代と図書館」甲南大学教授 前川恒雄氏
26	愛 半 田 市	知 市 平5 8.24～25	主題「自ら学ぶ意欲と豊かな心を育てる学校図書館のあり方」講演「南吉と賢治」児童文学作家 浜野卓也氏
27	静 浜 松 市	岡 市 平7 6.4～5	主題「豊かな心と社会の変化に主体的に対応できる力を育む図書館教育」講演「読むこと書くこと話すこと」児童文学作家 今江祥智氏
28	愛 名 古 屋 市	知 市 平9 7.30～31	主題「豊かに生きる力を育てる学校図書館の活動はどうあるべきか」講演「本を読む人 読まない人」作家 清水義範氏
29	三 津 市	重 市 平11 6.3～4	主題「21世紀の学校図書館への展望～個性をみがき、豊かに生きる力をはぐむ学校図書館のあり方～」講演「絵本づくりの周辺－漂う漂うさんのこと－」画家・絵本作家 梅田俊作氏・梅田佳子氏
30	岐 美濃加茂市・可児市	阜 市 平13 6.9～10	主題「21世紀の始まり 学校図書館に求められるもの－情報社会に対応する学校図書館の展望－」講演「私のメルヘン－子供は明日、大人になる。大人は昨日、子供だった。－」米倉斉加年氏
31	愛 豊 田 市	知 市 平15 8.7～8	主題「新しい時代を拓く学校図書館の創造－たくましく生きる力を育む学校図書館をめざして－」講演「本と詩と音楽と」詩人 谷川俊太郎氏 音楽家 谷川賢作氏 児童文学者 水内喜久雄氏

全国学校図書館研究大会のあゆみ

回	開催地	開催年月日	大会の概要	参加者
1	東 京	昭25 2.27～3.1	・ 全国研究組織の創立。・ 学校図書館作りと運営。	350名
2	京 都	昭26 6.6～18	・ 研究組織の強化、学校図書館研究方策。・ 図書館作りと運営。	1,200名
3	小 田 原	昭27 9.17～19	・ 学校図書館分類と目録。・ 学校図書館運営の改善。	1,800名
4	大 分	昭28 11.17～19	・ 学校図書館法制定祝賀大会。 ・ 学図運営の研究。・ 読書指導の方策。	2,200名
5	仙 台	昭29 10.14～16	・ 学習に直結する学校図書館。・ 読書指導の研究。	2,500名
6	徳 島	昭30 11.14～16	・ 学習能率を高めるための学校図書館の活用。 ・ 学校規模に応じた運営。	3,000名
7	宇 都 宮	昭31 11.14～16	・ 学習活動を盛んにするためには学校の資料の充実活動をどうするか、他。	3,400名
8	札 幌	昭32 8.6～8	・ 件名目録の活用。・ 読書指導の深化と徹底。 ・ 学習に直結する学図。	2,500名
9	岡 山	昭33 11.18～20	・ 教科学習に結びつく学校図書館。 ・ 人間形成のための読書と指導法。	3,200名
10	東 京	昭34 8.6～8	・ 司書教諭や学校司書の行政的問題。 ・ 教育課程の改訂と図書館資料、他。	4,200名
11	大 阪	昭35 12.17～19	・ マスコミ時代の読書。・ 改訂教育課程と読書指導。 ・ 資料整理と活用。	3,800名
12	新 潟	昭36 10.3～5	・ 資料センターとしての学図のあり方。 ・ 必読書、集団読書の深め方。	2,500名
13	松 山	昭37 10.23～25	・ 教科と結ぶ学校図書館の運営。 ・ 学級文庫の運営。・ 学図とPTA。	2,500名
14	成 田	昭38 10.28～30	・ 教育課程と学校図書館。 ・ 発達段階に応じた読書指導。・ 資料の整理。	2,200名

回	開催地	開催年月日	大会の概要	参加者
15	鹿児島	昭41 7.28～30	・教育課程と学校図書館。・資料整理、読書指導。・家庭での読書、他。	3,000名
16	名古屋	昭43 10.31～11.2	・教育課程と学校図書館。・資料の組織化。 ・家庭、社会での読書指導。	2,600名
17	山形	昭45 10.6～8	・読書指導とその体系化。・特殊学校、へき地学校の図書館、他。	2,300名
18	兵庫	昭47 10.31～11.2	主題-生涯教育の基礎を培う学校教育の今日的課題にこたえる学校図書館のあり方。・学習指導改善と学図。・人間形成と学図。	3,200名
19	東京	昭49 8.7～9	主題-70年代の変ぼうする社会や教育の動きの中で学校教育の現代的課題にこたえ得る学校図書館のあり方。・管理運営、利用、読書指導。	2,500名
20	岐阜	昭51 8.17～19	主題-学校教育の今日的課題にこたえて、みずから学ぶ力を養い、豊かな心を育てる学校図書館のあり方。・資料の組織化、利用、読書指導。	3,000名
21	佐賀	昭53 10.31～11.2	主題-すべての児童生徒に読書の喜びを与え、自ら学ぶ力を育てるため、学校図書館の果たす役割を実践を通して考える。・資料の組織化、他。	2,000名
22	盛岡	昭55 8.18～20	主題-人間性豊かな児童生徒を育てるために、学校図書館はどのような役割を果たさなければならないか。・自ら学ぶ力、ゆとりと学校図書館	2,700名
23	伊勢	昭57 8.4～6	主題-ゆとりある教育と学校図書館。・豊かな感性、創造性と読書教育。 ・生涯教育と学校図書館。・ゆとりある充実した学校生活と学校図書館	3,000名
24	山口	昭59 8.7～9	主題-21世紀の教育をひらく学校図書館。・自ら学び自ら考える子どもを育てる。・読書の楽しさ。・魅力ある図書館。	3,300名
25	那覇	昭61 8.4～6	主題-自ら学ぶ力を育てる学校図書館。・21世紀をひらく教育の創造	2,600名
26	札幌	昭63 8.3～5	主題-自己教育力を育てる学校図書館。・学習の改革。 ・教育の質的向上。・豊かな感性と高い知性	2,500名
27	松江	平2 8.7～9	主題-生涯学習の基礎を培う学校図書館。・自ら学ぶ教育の実現。 ・高度情報化社会に生きる。・読書教育の理論	2,200名
28	福岡	平4 7.29～31	主題-学び方の教育を推進する学校図書館。・生涯にわたる自己教育。 ・メディアの収集。・読書教育の原理	2,500名
29	秋田	平6 8.2～3	主題-学習・情報センターとしての学校図書館。・知的探求心を育てる。 メディアセンターとして。・読書教育の原理と実践・国際化時代。	2,500名
30	浦和	平8 8.3～5	主題-情報活用能力を培う学校図書館。・自己教育力を養う学習 ・情報センター。主体的・創造的な人間の育成。・新しい地域文化。	3,000名
31	金沢	平10 8.3～5	主題-新世紀の教育を拓く学校図書館。・子どもの学ぶ権利・読む権利を保障。人間性と思慮力を育てる読書センター。社会の進展に対応。	2,200名
32	奈良	平12 8.2～4	主題-学校図書館が変わる、教育が変わる。・多様なメディアを活用。 ・読書活動の促進。・地域の教育・文化の創造に寄与する。	2,100名
33	横浜	平14 7.30～8.1	主題-学びのネットワークを広げる学校図書館。・情報センターとして。 ・司書教諭をはじめとした図書館スタッフの役割。・教育の情報化・国際化	3,000名

編集後記

これまでに先輩諸氏が「20周年記念誌」、「30周年記念誌」と立派な記念誌を発行されてきました。今回、図らずも「40周年記念誌」編集委員長という大役をいただき、その重圧を感じながら、編集作業に取り組んでまいりました。その過程にはいろいろな課題や問題に直面しましたが、過去、編集に携わった先輩諸氏のご努力を思い、勇気づけられたことが多々ありました。幸い委員の皆さんや多くの方々の支えのおかげで、こうして発行までこぎつけることができました。

学校図書館を取り巻く情勢は、この10年間で大きな変化が見られます。編集には、学校図書館教育の変化の節目が分かるように国・文部科学省の諸施策等も織り込み、また、学校図書館研究会の変遷も記録として残すように取り組んでまいりました。しかし、実際に作業に入ると、適切な写真や記録が見当たらず、委員の皆さんにはことのほかご尽力をお願いしました。

はげましのお言葉を賜りました愛知県教育委員会、校長会、中日新聞社をはじめ皆様方、玉稿をいただきました諸先輩の皆さま方、本当にありがとうございました。皆さま方の「はげましのお言葉」や「おもいで」の一つ一つによって、「40周年記念誌」に一層の光彩と重厚さが加わりました。心から感謝申し上げます。

40周年を機に、豊田市で開かれました東海大会では、大きな成果を挙げることができました。本研究会も、毎年行われている研究大会も、今後ますます発展していられることでしょう。そして、この小冊子によって、過去10年をふり返り、原点に立ち返って、これからの県下学校図書館の発展に、少しでもお役に立ちますことを祈りまして後記といたします。

平成15年10月15日 編集委員長 伊藤 嘉彦

編 集 委 員

委 員 長	伊藤 嘉彦	校長（音羽・萩小）
副 委 員 長	川崎 東剛	校長（一宮・北方小）
	中根 洋	校長（岡崎・羽根小）
	清水 國光	校長（県立瀬戸高）
	馬場 隆敏	校長（稲沢・千代田小）
県事務局長	坪井富士男	教諭（豊田・東保見小）
庶 務 部 長	鈴木 伸一	教諭（豊橋・前芝中）
委 員	穴沢 隆弘	教諭（岩倉・南部中）
	鈴木 洋子	教諭（丹羽・大口中）
	石川 泰範	教諭（豊田・豊南中）
	河合 伸治	教諭（豊橋・高豊中）
	田中 伸治	教諭（県立瀬戸北高）
	加藤 雅敏	教諭（県立半田東高校）

愛知県学校図書館研究会40周年記念誌

平成15年11月10日 印刷
平成15年11月15日 発行

編 集 愛知県学校図書館研究会記念誌編集委員会
発 行 愛知県学校図書館研究会
 代表者 福岡 武宏
 事務局 宝飯郡音羽町萩字岩田9-2 音羽町立萩小学校
印 刷 有限会社エイト
 豊川市牧野町一丁目32 TEL 0533-80-7231



野外に設置された図書館を利用する子供

**The 40th
anniversary**